

# 卒業後の動向調査報告書

---



日本赤十字看護大学看護学部  
日本赤十字看護大学同窓会

## はじめに

赤十字の看護教育の歴史は、1890年（明治23年）に開始された日本赤十字社中央病院救護看護婦養成所における看護婦育成に遡ります。その後、日本赤十字女子専門学校の設置（1946年）、日本赤十字女子短期大学（1954年）、日本赤十字看護大学（1986年）、日本赤十字武蔵野短期大学との統合（2005年）を経て2020年には130周年を迎えました。2020年のさいたま看護学部の開設により、日本赤十字看護大学は2つの学部と1つの大学院を有する大学になりました。

今日に至るまでの長い期間、本学及びその前身である赤十字の看護教育機関は、多くの看護実践家、教育者、研究者を輩出してきました。この記念の年に、卒業生の活動状況を把握するために、大学と同窓会とが協力して同窓生を対象とした調査を実施することにいたしました。

今回の調査目的は、赤十字の教育を受けた卒業生は、社会でどのような活動をしているのか、同窓生の活動実態の把握と、大学や同窓会にどのような期待や要望を抱いているのかなどに関する意見を聴取することにあります。本調査結果から、これまでの赤十字の教育の歴史を振り返り、未来を見通すための指標が得られると考えました。

また本調査では、活動状況や赤十字で受けた教育の意味だけでなく、これまでのキャリアや人生への満足感も聞かせていただきました。赤十字の看護基礎教育は、その後の看護職人生にどのような意味を持ったのか、また看護という職業はそれぞれの人生にどのような意味を付与したのか、看護とキャリアと人生（ライフ）という視点で、同窓生の実体験に基づいたご意見を伺いたいと思った次第です。それらの見解が、これから看護職を目指す本学の在学生あるいは今、現場で活躍しておられる同窓生にとって、キャリアや人生を考える上で何らかの指針を提供できるのではないかと考えました。

現在、国内の看護系大学は、2020年4月現在で280校を数え、看護の教育機関は著しい発展を遂げつつあります。一方で18歳以下の若年人口は減少傾向にあります。優秀な人材を赤十字の看護教育にひきつけ、さらに発展する大学として、どのような特徴や魅力を社会に示していくか。それがますます問われる時代になっていくことを痛感しています。これまでの伝統を大切に、さらに発展する大学を目指して、大学と同窓会が一丸となって、赤十字の教育の未来を展望し取り組んでいきたいと考えております。

今回、本調査の趣旨をくみ取って調査にご協力頂きました同窓生の皆様には心より感謝いたします。皆さまのご協力なくしては、この報告書を作成することはできませんでした。改めて深く感謝申し上げます。これからも同窓会の皆様のお力添えを頂きますようよろしくお願いいたします。

また、今回の調査に関して、調査計画の立案から分析、報告書のまとめの作業に至るまで、多大なるご尽力をいただきました「卒業後の動向調査プロジェクトチーム」の皆さまにも、深く感謝いたします。

日本赤十字看護大学	学長	守田美奈子
日本赤十字看護大学同窓会	会長	竹内 幸枝

# 目 次

第Ⅰ部 調査概要	1
第Ⅱ部 調査結果	5
第Ⅰ章 属性	6
1. 性別	6
2. 年齢	7
3. 卒業・修了した教育機関	7
4. 婚姻の有無	8
5. 子どもの有無	9
6. 現在の居住地	10
第Ⅱ章 卒業後について	11
1. 卒業直後の進路	11
2. 卒業直後の就職先	12
3. 卒業直後の進学先	13
4. 卒業後に受けた研修あるいは進学先	14
5. 取得免許・資格	15
6. 取得学位	16
第Ⅲ章 職業について	18
1. 看護職（保健師・助産師・看護師）としての通算年数	18
2. 現在の職業継続	19
3. 転職について	20
4. 現在、看護職として仕事をしている方を対象とした分析結果	22
5. 現在、看護職として仕事をしていない方を対象とした分析結果	29
第Ⅳ章 仕事と人生の充実度について	30
1. 仕事をもつことの意味	30
2. 仕事以外の地域や社会での役割や活動	33
3. 人生の充実度	37
第Ⅴ章 赤十字の看護教育について	39
1. 赤十字の看護教育を通して身についたと思う力	39
2. 赤十字の看護教育を受けて良かったこと	41
3. 学生生活で良かったこと	44

第Ⅵ章 今後の大学や同窓会のネットワークづくりについて.....	46
1. 日本赤十字看護大学・同窓会に望むこと .....	46
2. 同窓生のネットワーク .....	47
3. 母校の発展のために協力できること .....	47
4. 同窓会や大学に期待すること .....	48
資料 .....	51
図表.....	52
質問紙.....	55



# 第 I 部 調査概要

- 調査目的： 日本赤十字看護大学の基礎教育の成果とその後のキャリア発達の特徴と課題を明らかにすることを目的とした。
- 調査期間： 2019年7月～2019年9月
- 調査対象： 本学同窓会に登録している全ての同窓生（ただし、海外在住者は連絡先を国内に登録している人）
- 調査方法： ①調査依頼書と共に質問紙を郵送  
②無記名で回答したものを投函用封筒に入れて返送  
③返送をもって調査に同意を得た

発送数：5,300名

回収数：933名 有効回収率 17.6%

## 調査項目

### I. あなた自身について

性別、年齢、卒業・修了した教育機関、婚姻の有無、子どもの有無、居住地など6項目

### II. 卒業後について

①卒業直後の進路、②卒業直後の就職先、③卒業直後の進学先、④卒業後に受けた研修あるいは進学先、⑤取得免許・資格、⑥取得学位など6項目

### III. 職業について

①看護職（保健師・助産師・看護師）としての通算年数、②現在の仕事、③転職の有無、④転職・離職理由、⑤現在の職種、⑥現在の職位、⑦仕事を継続する理由、⑧現在の仕事に対する満足度、⑨看護職としての継続意思、⑩これまでに就かれた職業（職種）、⑪就かれた職位など11項目

### IV. 仕事と人生の充実度について

①仕事をもつことの意味（「生活する上での充実感が得られる」「自分の夢や希望が実現する」など14項目）、②仕事以外の地域や社会での役割や活動、③人生の充実度など3項目

### V. 赤十字の看護教育について

①赤十字の看護教育を通して身についたと思う力（「関係を築く力」「擁護する力」など16項目）、②赤十字の看護教育を受けた良かったこと、③学生生活でよかったことなど3項目

### VI. 今後の大学や同窓会のネットワークづくりについて

①赤十字看護大学・同窓会に望むこと、②同窓生のネットワーク、③母校の発展のために協力してもよいと思えること、④同窓会や大学に期待すること（自由記述）など4項目

## 分析方法

分析は回答者数と回答率、あるいは平均値（標準偏差）で示した。また、各調査項目の分析では、年代別（20代、30代、40代、50代、60代、70代以上）と卒業・修了した教育機関群別（以下、群別とする）に分類（1～5群）して分析した。群別分類の詳細については表を参照されたい。

表 卒業・修了した教育機関群別分類

群分類	卒業・修了した教育機関
1群	日本赤十字女子短期大学
	日本赤十字中央女子短期大学
2群	日本赤十字武蔵野女子短期大学
	日本赤十字武蔵野短期大学
3群	日本赤十字看護大学
4群	日本赤十字看護大学大学院
5群	日本赤十字社中央病院救護看護婦養成所
	日本赤十字社中央病院救護看護婦養成所（乙種）
	日本赤十字女子専門学校
	武蔵野赤十字高等看護学院





## 第Ⅱ部 調査結果

# 第 I 章 属性

## 1. 性別

回答者の年代は20代を除き、ほぼ同程度の割合であった（表 I - 1）。また、群別では1群（29.2%）、3群（27.4%）の順に多かった（表 I - 2）。

表 I - 1 年代別の回答者性別と割合

年代（n）	女 性		男 性	
	n	%	n	%
20代（78）	77	8.4%	1	10.0%
30代（110）	106	11.6%	4	40.0%
40代（176）	172	18.8%	4	40.0%
50代（182）	181	19.8%	1	10.0%
60代（171）	171	18.7%	0	0.0%
70代以上（209）	209	22.8%	0	0.0%
総数（926）	916	100%	10	100%

無回答5名 不明2名を除く

表 I - 2 卒業・修了した教育機関群別の回答者性別と割合

群別（n）	女 性		男 性	
	n	%	n	%
1群（269）	269	29.2%	0	0.0%
2群（189）	189	20.5%	0	0.0%
3群（258）	253	27.4%	5	55.6%
4群（116）	112	12.1%	4	44.4%
5群（90）	90	9.8%	0	0.0%
総数（922）	913	100%	9	100%

無回答10名 不明1名を除く

## 2. 年齢

40代から60代が多く、57.1%を占めていた（図 I - 1）。

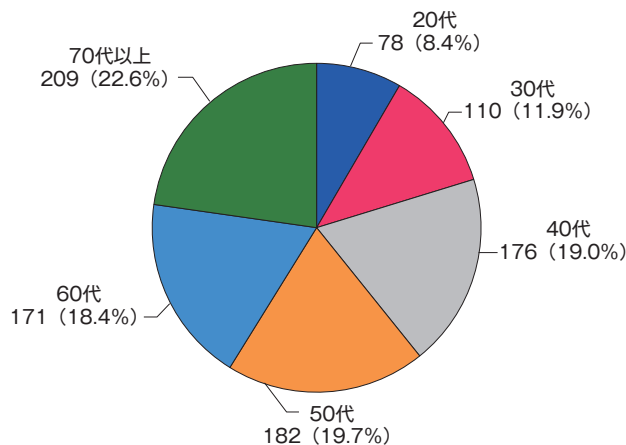


図 I - 1 回答者の年齢の割合 (n=926)

## 3. 卒業・修了した教育機関

回答者は、日本赤十字看護大学卒（28.0%）、日本赤十字中央女子短期大学（21.2%）の順に多かった（表 I - 3）。

表 I - 3 卒業・修了した教育機関別にみる回答者の割合

	n	%
日本赤十字社中央病院救護看護婦養成所	11	1.2%
日本赤十字社中央病院救護看護婦養成所（乙種）	4	0.4%
日本赤十字女子専門学校	23	2.5%
日本赤十字女子短期大学	73	7.9%
日本赤十字中央女子短期大学	196	21.2%
武蔵野赤十字高等看護学院	53	5.7%
日本赤十字武蔵野女子短期大学	153	16.6%
日本赤十字武蔵野短期大学	36	3.9%
日本赤十字看護大学	258	28.0%
日本赤十字看護大学大学院	116	12.6%
総数	923	100%

無回答10名を除く

1群は60代以上、2群は50代や60代、3群は20代から40代、4群は30代や40代、そして5群は70代以上が中心であった（表I-4）。

表I-4 回答者の年代と卒業・修了した教育機関群のクロス表

群別 (n)	20代		30代		40代		50代		60代		70代以上	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1群 (267)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	67	37.0%	98	58.0%	102	49.3%
2群 (189)	0	0.0%	15	13.8%	36	20.6%	63	34.8%	59	34.9%	16	7.7%
3群 (258)	74	94.9%	71	65.1%	94	53.7%	19	10.5%	0	0.0%	0	0.0%
4群 (115)	4	5.1%	23	21.1%	44	25.1%	32	17.7%	11	6.5%	1	0.5%
5群 (90)	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	1	0.6%	88	42.5%
総数 (919)	78	100%	109	100%	175	100%	181	100%	169	100%	207	100%

無回答14名を除く

#### 4. 婚姻の有無

婚姻「あり」は717名（77.9%）であり、「なし」は203名（22.1%）であった。

婚姻の有無別に群別の割合をみると、「あり」では1群（85.8%）が高く、「なし」は4群（35.3%）が高かった。これは、年齢的な面も関係しているとも考えられる（表I-5）。

表I-5 卒業・修了した教育機関群別の婚姻率

群別 (n)	あり		なし	
1群 (268)	230	85.8%	38	14.2%
2群 (188)	161	85.6%	27	14.4%
3群 (257)	175	68.1%	82	31.9%
4群 (116)	75	64.7%	41	35.3%
5群 (91)	76	83.5%	15	16.5%
総数 (920)	717	77.9%	203	22.1%

無回答13名を除く

## 5. 子どもの有無

子ども「あり」が68.1%であり、うち2人（34.8%）という割合が最も多かった（表 I - 6）。  
群別にみた子どもの有無と人数については表 I - 7 を参照。

表 I - 6 子どもの有無と子どもの数の割合

	n	%
あり1人	142	15.3%
あり2人	323	34.8%
あり3人	167	18.0%
あり4人	23	2.5%
あり5人	1	0.1%
なし	272	29.3%
総数	928	100%

無回答5名を除く

表 I - 7 卒業・修了した教育機関群別にみた子どもの有無と人数

群別 ( n )	あり										なし	
	1人	%	2人	%	3人	%	4人	%	5人	%	%	
1群 (267)	34	12.7%	101	37.8%	66	24.7%	11	4.1%	0	0.0%	55	20.6%
2群 (189)	28	14.8%	80	42.3%	42	22.2%	3	1.6%	0	0.0%	36	19.0%
3群 (256)	47	18.4%	74	28.9%	31	12.1%	5	2.0%	1	0.4%	98	38.3%
4群 (115)	22	19.1%	26	22.6%	9	7.8%	1	0.9%	0	0.0%	57	49.6%
5群 ( 91)	9	9.9%	36	39.6%	19	20.9%	3	3.3%	0	0.0%	24	26.4%
総数 (918)	140	15.3%	317	34.5%	167	18.2%	23	2.5%	1	0.1%	270	29.4%

無回答15名を除く

## 6. 現在の居住地

回答者の居住地は東京、神奈川が多く、全国から寄せられた。

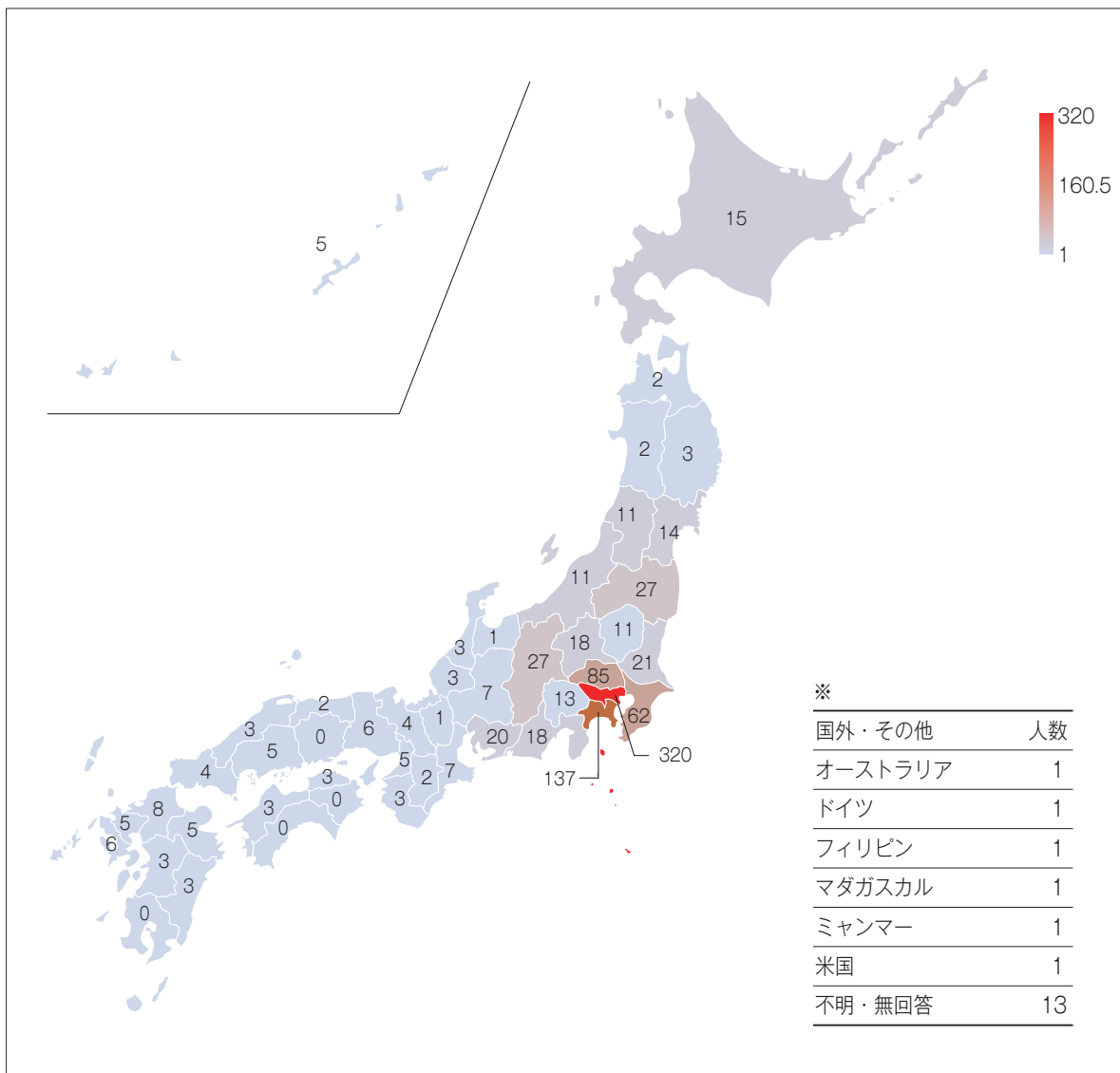


図 I - 2 回答者の現在の居住地

※ 海外在住者は連絡先を国内に登録している人

## 第Ⅱ章 卒業後について

### 1. 卒業直後の進路

卒業後の進路は「就職した」835名（90.0%）、「進学した」73名（7.9%）、「その他」20名（2.1%）であった。

年代別にみた卒業直後の進路の割合（表Ⅱ－1）、群別にみた卒業直後の進路の割合（表Ⅱ－2）をみると、年代別、群別において大きな違いが見られなかった。

表Ⅱ－1 年代別にみた卒業直後の進路

年代（n）	就職した		進学した		その他	
	n	%	n	%	n	%
20代（78）	74	94.9%	4	5.1%	0	0.0%
30代（110）	102	92.7%	6	5.5%	2	1.8%
40代（176）	166	94.3%	6	3.4%	4	2.3%
50代（182）	167	91.8%	9	4.9%	6	3.3%
60代（171）	155	90.6%	13	7.6%	3	1.8%
70代以上（211）	171	81.0%	35	16.6%	5	2.4%
総数（928）	835	90.0%	73	7.9%	20	2.1%

無回答5名を除く

表Ⅱ－2 卒業・修了した教育機関群別にみた卒業直後の進路

群別（n）	就職した		進学した		その他	
	n	%	n	%	n	%
1群（269）	223	82.9%	44	16.4%	2	0.7%
2群（189）	176	93.1%	13	6.9%	0	0.0%
3群（258）	249	96.5%	5	1.9%	4	1.6%
4群（116）	102	87.9%	4	3.4%	10	8.6%
5群（91）	80	87.9%	7	7.7%	4	4.4%
総数（923）	830	89.9%	73	7.9%	20	2.2%

無回答10名を除く



## 2. 卒業直後の就職先

赤十字系が78.4%で当然ながら最も多い就職先であった（表Ⅱ－3）。「その他」として、具体的な例としては、看護系教育機関、企業、訪問介護ステーション、家事専業、通信省、助産院、法人団体、農業協同組合、旧陸軍病院、重症心身障害児施設、工場の保健室、小学校養護教諭などが挙げられた。

20代、30代の若い世代は、赤十字以外の就職先の割合が他の世代に比較して多かった。また、これらの赤十字以外の就職先は、3群と4群に多く占めていた（表Ⅱ－4、表Ⅱ－5）。

表Ⅱ－3 卒業直後の就職先

卒業直後の就職先	n	%
赤十字系の病院	664	78.4%
赤十字以外の病院	123	14.5%
看護系教育機関	26	3.1%
保健所・保健センター	8	0.9%
企業	2	0.2%
学校（小中高）保健室	8	0.9%
その他	16	1.9%
総数	847	100%

不明4名を除く

表Ⅱ－4 年代別の卒業直後就職先

年代別（n）	赤十字系の病院		赤十字以外の病院		看護系教育機関		保健所・保健センター		企業		学校（小中高）保健室		その他	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
20代（74）	55	74.3%	18	24.3%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
30代（106）	69	65.1%	29	27.4%	2	1.9%	3	2.8%	1	0.9%	0	0.0%	2	1.9%
40代（167）	118	70.7%	36	21.6%	7	4.2%	3	1.8%	1	0.6%	0	0.0%	1	0.6%
50代（169）	137	81.1%	16	9.5%	10	5.9%	1	0.6%	0	0.0%	1	0.6%	3	1.8%
60代（155）	139	89.7%	7	4.5%	6	3.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	1	0.6%
70代以上（175）	142	81.1%	16	9.1%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	6	3.4%	9	5.1%
総数（846）	660	78.0%	122	14.4%	26	3.1%	8	0.9%	2	0.2%	8	0.9%	16	1.9%

無回答5名を除く

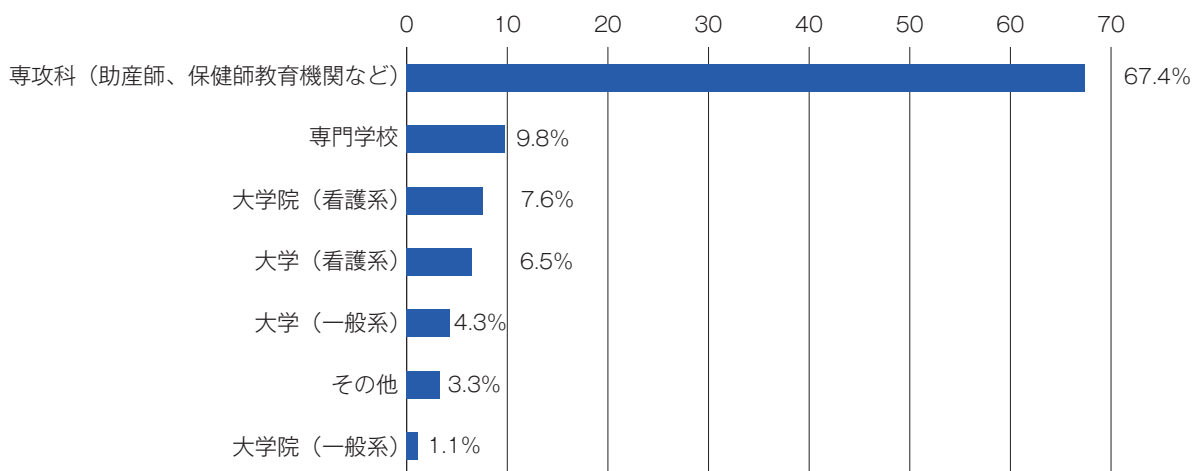
表Ⅱ－５ 卒業・修了した教育機関群別の卒業直後就職先

群別 (n)	赤十字系の病院		赤十字以外の病院		看護系教育機関		保健所・保健センター		企業		学校(小中高) 保健室		その他	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1群 (222)	197	88.7%	21	9.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.9%	2	0.9%
2群 (175)	165	94.3%	9	5.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%
3群 (248)	177	71.4%	60	24.2%	1	0.4%	7	2.8%	2	0.8%	0	0.0%	1	0.4%
4群 (102)	49	48.0%	25	24.5%	24	23.5%	1	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.9%
5群 (79)	63	79.7%	5	6.3%	1	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	5	6.3%	5	6.3%
総数 (826)	651	78.8%	120	14.5%	26	3.1%	8	1.0%	2	0.2%	8	1.0%	11	1.3%

無回答9名、不明4名を除く

### 3. 卒業直後の進学先

卒業直後に就職せずに進学した人は、専攻科（助産師、保健師）が67.4%と最も多かった（図Ⅱ－1）。

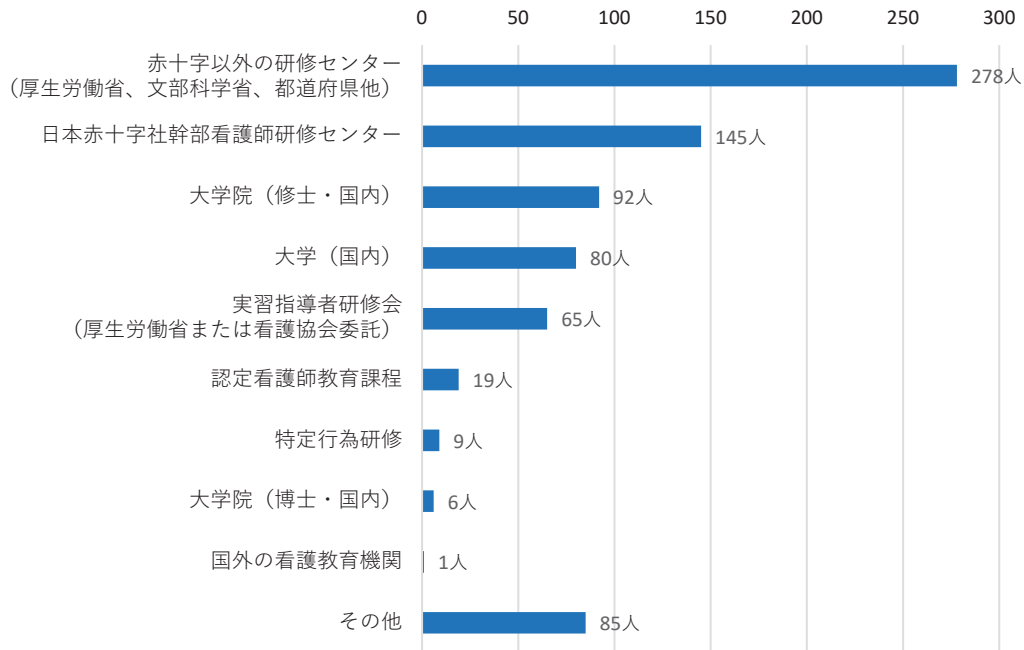


図Ⅱ－1 卒業直後の進学先 (n=92)

#### 4. 卒業後に受けた研修あるいは進学先

赤十字以外の研修センター（厚生労働省、文部科学省、都道府県他）が最も多く278名であった（図Ⅱ－2）。

群別にみた研修あるいは進学先の割合は表Ⅱ－6を参照。



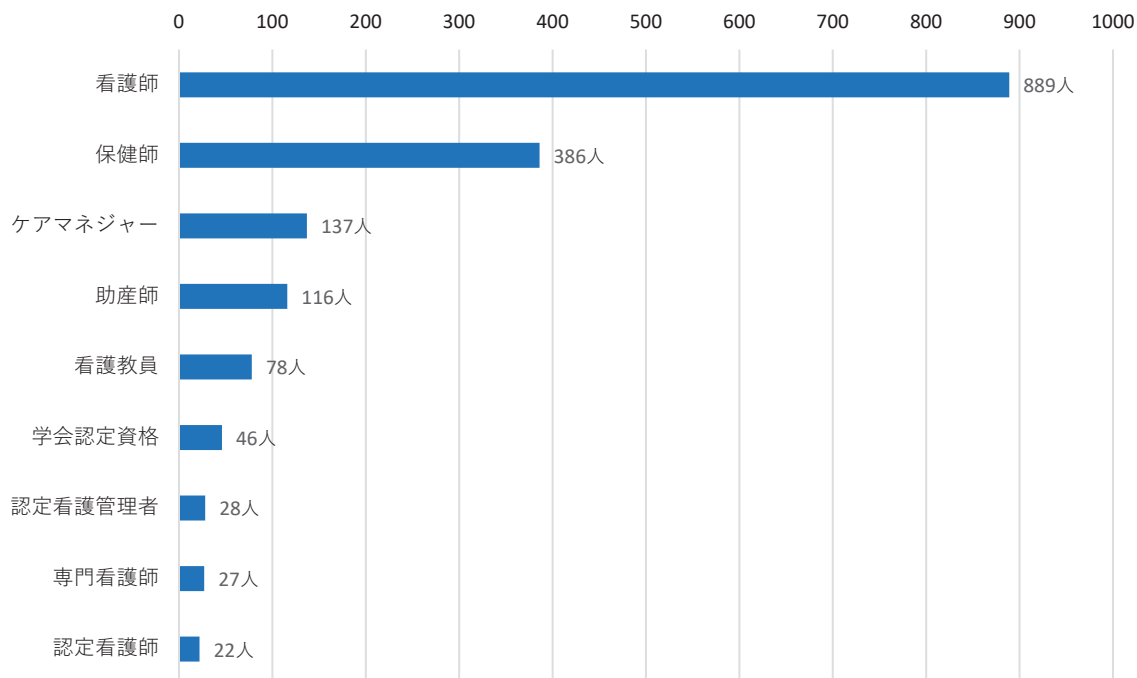
図Ⅱ－2 卒業後に受けた研修あるいは進学先（複数回答）

表Ⅱ－6 卒業・修了した教育機関群別にみた卒業後の研修と進学先

群別 (n)	日本赤十字社幹部看護師研修センター		赤十字以外の研修センター (厚生労働省、文部科学省、都道府県他)		実習指導者研修会 (厚生労働省または看護協会委託)		認定看護師教育課程		特定行為研修		大学 (国内)		大学院 (修士・国内)		大学院 (博士・国内)		国外の看護教育機関		その他	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1群 (268)	31	11.6%	69	25.7%	34	12.7%	8	3.0%	5	1.9%	47	17.5%	23	8.6%	9	3.4%	3	1.1%	39	14.6%
2群 (175)	18	10.3%	46	26.3%	18	10.3%	3	1.7%	4	2.3%	32	18.3%	18	10.3%	2	1.1%	1	0.6%	33	18.9%
3群 (136)	11	8.1%	38	27.9%	10	7.4%	11	8.1%	3	2.2%	6	4.4%	28	20.6%	8	5.9%	1	0.7%	20	14.7%
4群 (114)	10	8.8%	10	8.8%	7	6.1%	1	0.9%	0	0.0%	7	6.1%	44	38.6%	22	19.3%	1	0.9%	12	10.5%
5群 (76)	12	15.8%	25	32.9%	14	18.4%	0	0.0%	2	2.6%	3	3.9%	3	3.9%	0	0.0%	1	1.3%	16	21.1%
総計 (769)	82	10.7%	188	24.4%	83	10.8%	23	3.0%	14	1.8%	95	12.4%	116	15.1%	41	5.3%	7	0.9%	120	15.6%

## 5. 取得免許・資格

看護師、保健師の順に多かった（図Ⅱ－3、表Ⅱ－7）。



図Ⅱ－3 取得免許・資格（複数回答）

表Ⅱ－7 卒業・修了した教育機関群別にみた免許取得・資格（複数回答）

群別 (n)	看護師		保健師		助産師		ケアマネジャー		認定看護師		専門看護師		認定看護管理者		看護教員		学会認定資格	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1群 (269)	254	94.4%	74	27.5%	21	7.8%	53	19.7%	7	2.6%	4	1.5%	10	3.7%	20	7.4%	12	4.5%
2群 (189)	182	96.3%	45	23.8%	26	13.8%	32	16.9%	3	1.6%	2	1.1%	7	3.7%	19	10.1%	6	3.2%
3群 (258)	253	98.1%	172	66.7%	31	12.0%	24	9.3%	4	1.6%	4	1.6%	3	1.2%	10	3.9%	12	4.7%
4群 (116)	107	92.2%	55	47.4%	23	19.8%	13	11.2%	5	4.3%	15	12.9%	5	4.3%	16	13.8%	7	6.0%
5群 (91)	86	94.5%	34	37.4%	13	14.3%	14	15.4%	1	1.1%	1	1.1%	0	0.0%	10	11.0%	5	5.5%

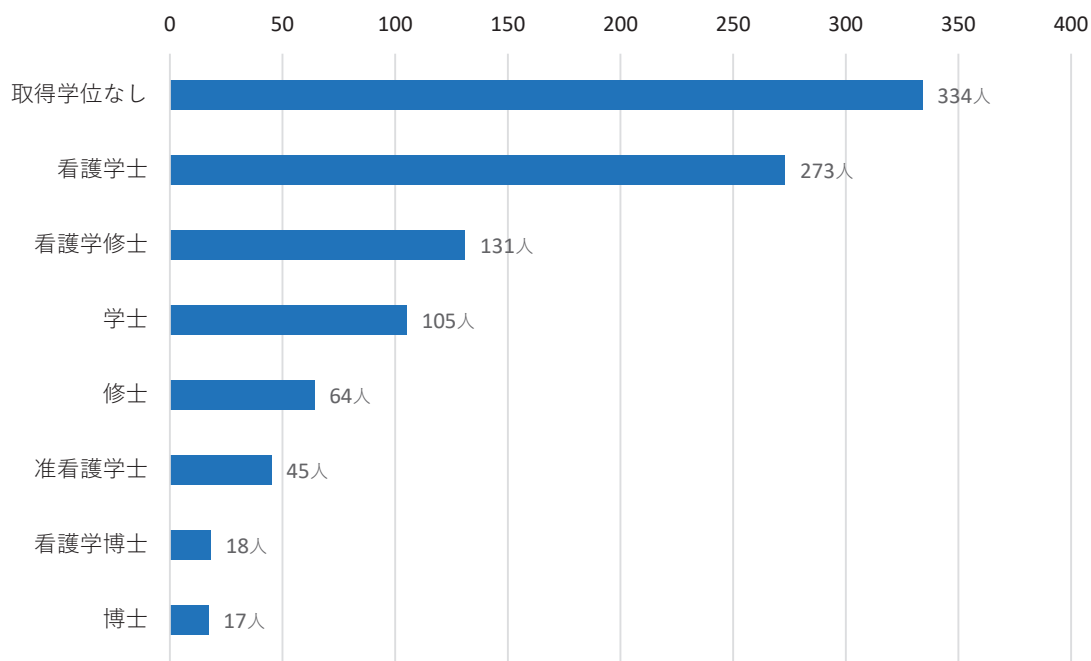
無回答9名 不明1名を除く

複数回答：各項目の比率は各群の総数に対する比率のため群ごとの合計は100%を越える。以下同様の処置をしている。

## 6. 取得学位

大学になる前の教育を受けた人は「学位なし」が最も多く334名、次いで看護学士273名の順であった（図Ⅱ－4）。

年代別にみると、看護学修士は30代、40代で多く（22.7～28.4%）、群別においても当然ながら3群と4群が多い（表Ⅱ－8、表Ⅱ－9）。



図Ⅱ－4 取得学位（複数回答）

表Ⅱ－8 年代別にみた学位とその割合（複数回答）

年代（n）	取得学位なし		准看護学士		看護学士		看護学修士		看護学博士		学士		修士		博士	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
20代（78）	18	23.1%	1	1.3%	54	69.2%	6	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
30代（110）	18	16.4%	6	5.5%	69	62.7%	25	22.7%	1	0.9%	2	1.8%	4	3.6%	0	0.0%
40代（176）	21	11.9%	21	11.9%	92	52.3%	50	28.4%	4	2.3%	25	14.2%	10	5.7%	3	1.7%
50代（182）	78	42.9%	6	3.3%	36	19.8%	36	19.8%	9	4.9%	34	18.7%	20	11.0%	4	2.2%
60代（171）	95	55.6%	7	4.1%	6	3.5%	10	5.8%	3	1.8%	28	16.4%	18	10.5%	5	2.9%
70代以上（209）	104	49.8%	4	1.9%	16	7.7%	4	1.9%	1	0.5%	16	7.7%	12	5.7%	5	2.4%

無回答5名 不明2名を除く

表Ⅱ－9 卒業・修了した教育機関群別にみた取得学位（複数回答）

群別 (n)	取得学位なし		准看護学士		看護学士		看護学修士		看護学博士		学士		修士		博士	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1群 (269)	154	57.2%	8	3.0%	17	6.3%	8	3.0%	4	1.5%	40	14.9%	21	7.8%	9	3.3%
2群 (189)	90	47.6%	24	12.7%	26	13.8%	8	4.2%	1	0.5%	32	16.9%	13	6.9%	0	0.0%
3群 (258)	43	16.7%	2	0.8%	181	70.2%	24	9.3%	2	0.8%	8	3.1%	9	3.5%	3	1.2%
4群 (116)	2	1.7%	9	7.8%	45	38.8%	90	77.6%	12	10.3%	20	17.2%	19	16.4%	4	3.4%
5群 (91)	43	47.3%	1	1.1%	3	3.3%	2	2.2%	0	0.0%	4	4.4%	3	3.3%	1	1.1%

無回答9名 不明1名を除く

## 第Ⅲ章 職業について

### 1. 看護職（保健師・助産師・看護師）としての通算年数

看護職としての通算年数の平均は19.4年であり、年代が上がるにつれ平均年数も長くなっていった（表Ⅲ－1）。

表Ⅲ－1 看護職（保健師・助産師・看護師）としての通算年数（全体）

年代	全体	
	n	平均年数
20代	78	3.1
30代	109	12.5
40代	175	17.4
50代	181	24.6
60代	169	27.6
70代以上	203	31.2
総数	915	19.4

看護職としての通算年数のうち、「臨床・臨地」、「教育・研究」、「その他」における経験年数について回答した結果を表Ⅲ－2に示す。「臨床・臨地」の平均年数は、60代が最も長く（20.7年）、次いで70代以上（20.0年）、50代（15.6年）、40代（15.3年）が全年代平均年数（14.1年）を上回っていた。「教育・研究」の平均年数は、70代以上（17.5年）、60代（15.6年）、50代（11.8年）の順に長く、全年代平均年数（8.9年）を上回っていた。

表Ⅲ－2 看護職（保健師・助産師・看護師）としての通算年数の内訳

年代	臨床・臨地		教育・研究		その他	
	n	平均年数	n	平均年数	n	平均年数
20代	66	2.9	1	0.5	6	1.7
30代	90	10.0	20	3.6	15	5.9
40代	146	15.3	41	4.1	23	21.7
50代	108	15.6	50	11.8	42	15.1
60代	140	20.7	43	15.6	36	11.4
70代以上	147	20.0	51	17.5	67	18.3
総数	697	14.1	206	8.9	189	12.4

## 2. 現在の職業継続

「看護関係の仕事をしている」が598人（64.1%）、「看護以外の仕事をしている人」が68人（7.3%）、「仕事をしていない人」が267人（28.6%）であった。20代から50代の8～9割が看護関係の仕事に就いていた。定年退職を迎える60代以上は「仕事をしていない」が増える傾向にあったが、20代から50代にも一定数仕事をしていない人がいた（表Ⅲ－3）。

群別では、看護関係の仕事継続している人の割合は、4群、3群、2群の順に高く、半数以上が看護関係の仕事継続していた。その中でも、特に4群は看護関係の常勤として仕事を続けている人が多く、3群、2群は非常勤として看護関係の仕事継続している人が増える傾向にあった。現在仕事をしていないと回答した割合が最も多い5群（84.6%）や1群（41.3%）については、すでに定年退職の年齢層が一定数含まれている可能性が高い（表Ⅲ－4）。

表Ⅲ－3 年代別の現在の職業継続

年代（n）	看護関係の仕事をしている				看護以外の仕事をしている				仕事を していない	
	常勤		非常勤		常勤		非常勤		n	%
20代（78）	63	80.8%	3	3.8%	2	2.6%	0	0.0%	10	12.8%
30代（110）	73	66.4%	19	17.3%	1	0.9%	2	1.8%	15	13.6%
40代（176）	121	68.8%	27	15.3%	10	5.7%	3	1.7%	15	8.5%
50代（184）	116	63.0%	39	21.2%	10	5.4%	8	4.3%	11	6.0%
60代（171）	58	33.9%	44	25.7%	9	5.3%	8	4.7%	52	30.4%
70代以上（214）	11	5.1%	24	11.2%	4	1.9%	11	5.1%	164	76.6%
総数（933）	442	47.4%	156	16.7%	36	3.9%	32	3.4%	267	28.6%

表Ⅲ－4 卒業・修了した教育機関群別の現在の職業継続

群別（n）	看護関係の仕事をしている				看護以外の仕事をしている				仕事を していない	
	常勤		非常勤		常勤		非常勤		n	%
1群（269）	80	29.7%	49	18.2%	16	5.9%	13	4.8%	111	41.3%
2群（189）	84	44.4%	53	28.0%	5	2.6%	11	5.8%	36	19.0%
3群（258）	178	69.0%	38	14.7%	11	4.3%	3	1.2%	28	10.9%
4群（116）	95	81.9%	7	6.0%	4	3.4%	1	0.9%	9	7.8%
5群（91）	3	3.3%	8	8.8%	0	0.0%	3	3.3%	77	84.6%
総数（923）	440	47.7%	155	16.8%	36	3.9%	31	3.4%	261	28.3%

無回答10名を除く



### 3. 転職について

職場内異動は含まない転職回数の結果について、年代別（表Ⅲ－５）と群別（表Ⅲ－６）に示す。年代別では転職回数は１～３回が最も多く、485人（54.9%）であった。次いで４～６回が154人（17.4%）であった。「転職していない」は225人（25.5%）であった。年代別では、年代が上がるにつれて転職回数が増える傾向にあった。群別では全体傾向と同様であり、最終学歴による転職回数や転職有無に特徴的な傾向はなかった。

表Ⅲ－５ 年代別の転職回数と転職の有無

年代（n）	転職した						転職していない	
	1～3回		4～6回		7回以上		n	%
	n	%	n	%	n	%	n	%
20代（76）	22	28.9%	0	0.0%	0	0.0%	54	71.1%
30代（108）	69	63.9%	4	3.7%	1	0.9%	34	31.5%
40代（176）	110	62.5%	28	15.9%	3	1.7%	35	19.9%
50代（174）	95	54.6%	40	23.0%	8	4.6%	31	17.8%
60代（157）	80	51.0%	45	28.7%	2	1.3%	30	19.1%
70代以上（192）	109	56.8%	37	19.3%	5	2.6%	41	21.3%
総数（883）	485	54.9%	154	17.4%	17	1.9%	225	25.5%

無回答者50名を除く

表Ⅲ－６ 卒業・修了した教育機関群別の転職回数と転職の有無

群別（n）	転職した						転職していない	
	1～3回		4～6回		7回以上		n	%
	n	%	n	%	n	%	n	%
1群（247）	136	55.1%	56	22.7%	8	3.2%	47	19.0%
2群（183）	101	55.2%	48	26.2%	7	3.8%	27	14.8%
3群（253）	135	53.4%	26	10.3%	3	1.1%	89	35.2%
4群（112）	63	56.3%	12	10.7%	0	0.0%	37	33.0%
5群（80）	43	53.8%	12	15.0%	1	1.3%	24	30.0%
総数（875）	478	54.6%	154	17.6%	19	2.2%	224	25.6%

無回答58名を除く

転職の理由として、20代は「奨学金返還終了（10人、15.6%）」が最も多かったが、30代では「結婚（24人、8.7%）」「妊娠・出産・育児（23人、11.2%）」「やりたい仕事を発見（23人、16.8%）」を転職理由として挙げた人が多かった。「結婚」や「妊娠・出産・育児」を転職理由として挙げた人は、30代～70代以上の各年代で同様に多い傾向がみられたが、「進学」を転職理由に挙げた40代、「仕事内容」を転職理由に挙げた40、50代、別の職場からの誘いや定年退職を転職理由に挙げた70代以上と年代によって転職理由が異なっていく傾向にあることも明らかになった（表Ⅲ－７）。

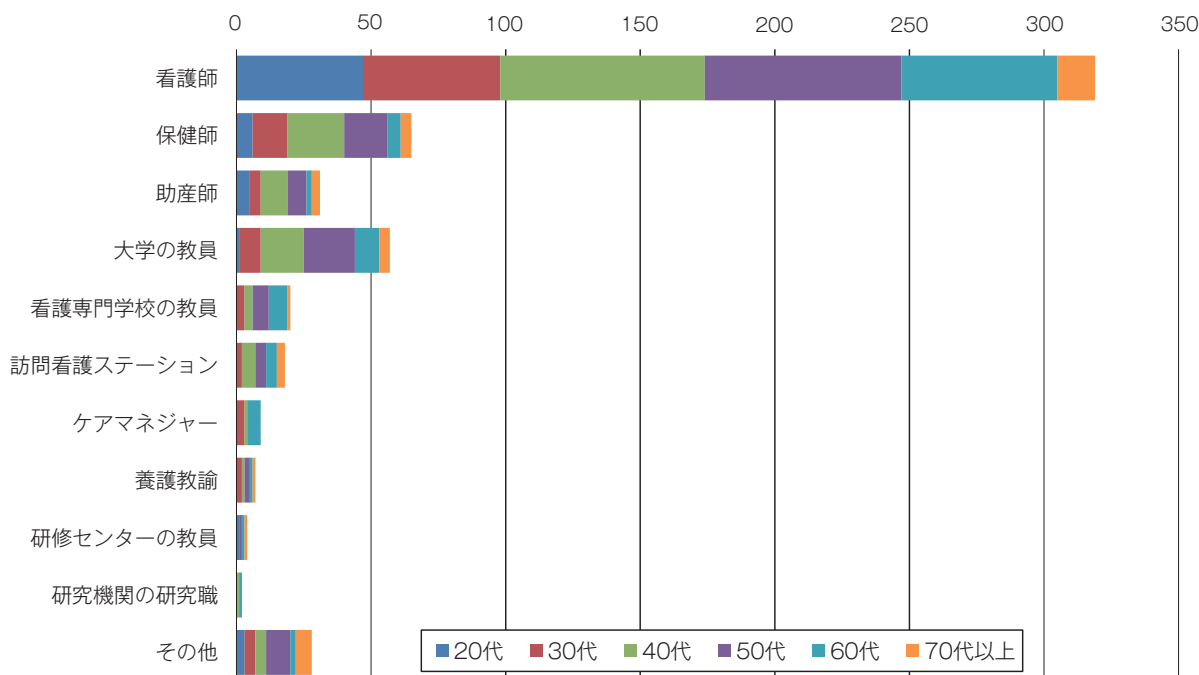
表Ⅲ-7 転職の理由（複数回答）

年代 (n)	奨学金返還終了	結婚	妊娠・出産・育児	地元に戻る為	別の職場からの誘い	やりたい仕事を発見	自分の進学	配偶者の転勤	親の介護	自分の病気	家族の病気	職場の人間関係	仕事内容	自分の適性	勤務条件	定年	仕事に就くため	看護職以外の	その他
20代 (76)	10	5	3	0	0	5	2	1	0	4	0	2	3	0	3	0	0	0	4
%	15.6%	1.8%	1.5%	0.0%	0.0%	3.6%	1.8%	1.3%	0.0%	8.0%	0.0%	4.3%	1.9%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%
30代 (108)	4	24	23	9	11	23	15	4	2	7	1	7	17	15	15	0	0	4	4
%	6.3%	8.7%	11.2%	7.5%	8.4%	16.8%	13.4%	5.2%	5.9%	14.0%	3.0%	15.2%	11.0%	24.2%	13.0%	0.0%	0.0%	9.1%	7.1%
40代 (176)	18	36	55	17	23	31	43	17	2	13	6	14	40	13	29	0	0	8	12
%	28.1%	13.0%	26.8%	14.2%	17.6%	22.6%	38.4%	22.1%	5.9%	26.0%	18.2%	30.4%	26.0%	21.0%	25.2%	0.0%	0.0%	18.2%	21.4%
50代 (174)	19	70	50	40	27	30	26	22	8	12	7	5	44	13	28	2	2	9	13
%	29.7%	25.4%	24.4%	33.3%	20.6%	21.9%	23.2%	28.6%	23.5%	24.0%	21.2%	10.9%	28.6%	21.0%	24.3%	2.5%	2.5%	20.5%	23.2%
60代 (157)	9	64	37	27	28	31	11	18	10	11	11	9	29	10	23	25	9	9	10
%	14.1%	23.2%	18.0%	22.5%	21.4%	22.6%	9.8%	23.4%	29.4%	22.0%	33.3%	19.6%	18.8%	16.1%	20.0%	31.6%	20.5%	20.5%	17.9%
70代以上 (192)	4	77	37	27	42	17	15	15	12	3	8	9	21	11	17	52	14	14	13
%	6.3%	27.9%	18.0%	22.5%	32.1%	12.4%	13.4%	19.5%	35.3%	6.0%	24.2%	19.6%	13.6%	17.7%	14.8%	65.8%	31.8%	31.8%	23.2%
総数 (883)	64	276	205	120	131	137	112	77	34	50	33	46	154	62	115	79	44	44	56

#### 4. 現在、看護職として仕事をしている方を対象とした分析結果

##### (1) 現在の職種

看護師がいずれの年代で最も多かった(図Ⅲ-1、表Ⅲ-8)。次いで多かった職業(職種)は、30代、40代では保健師が多かったが、50代は大学の教員が多かった(表Ⅲ-8)。群別では、いずれも看護師が多かったが、3群は保健師38人(17.6%)、4群は大学教員26人(25.5%)が続いた(表Ⅲ-9)。各表の赤枠  は上記のことを示す。



図Ⅲ-1 年代別の現在の職業 (n=560)

表Ⅲ-8 年代別の現在の職業（職種）

年代 (n)	看護師	保健師	助産師	訪問看護ステーション	ケアマネジャー	養護教諭	看護専門学校の教員	大学の教員	研修センターの教員	研究機関の研究職	その他
20代 (63)	47 74.6%	6 9.5%	5 7.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.6%	1 1.6%	0 0.0%	3 4.8%
30代 (90)	51 56.7%	13 14.4%	4 4.4%	2 2.2%	3 3.3%	2 2.2%	3 3.3%	8 8.9%	0 0.0%	0 0.0%	4 4.4%
40代 (138)	76 55.1%	21 15.2%	10 7.2%	5 3.6%	1 0.7%	1 0.7%	3 2.2%	16 11.6%	0 0.0%	1 0.7%	4 2.9%
50代 (137)	73 53.3%	16 11.7%	7 5.1%	4 2.9%	0 0.0%	2 1.5%	6 4.4%	19 13.9%	1 0.7%	0 0.0%	9 6.6%
60代 (95)	58 61.1%	5 5.3%	2 2.1%	4 4.2%	5 5.3%	1 1.1%	7 7.4%	9 9.5%	1 1.1%	1 1.1%	3 3.2%
70代以上 (37)	14 37.8%	4 10.8%	3 8.1%	3 8.1%	0 0.0%	1 2.7%	1 2.7%	4 10.8%	1 2.7%	0 0.0%	5 13.5%
総数 (560)	319	65	31	18	9	7	20	57	4	2	28
%	56.9%	11.6%	5.5%	3.2%	1.6%	1.2%	3.6%	10.2%	0.7%	0.4%	5.0%

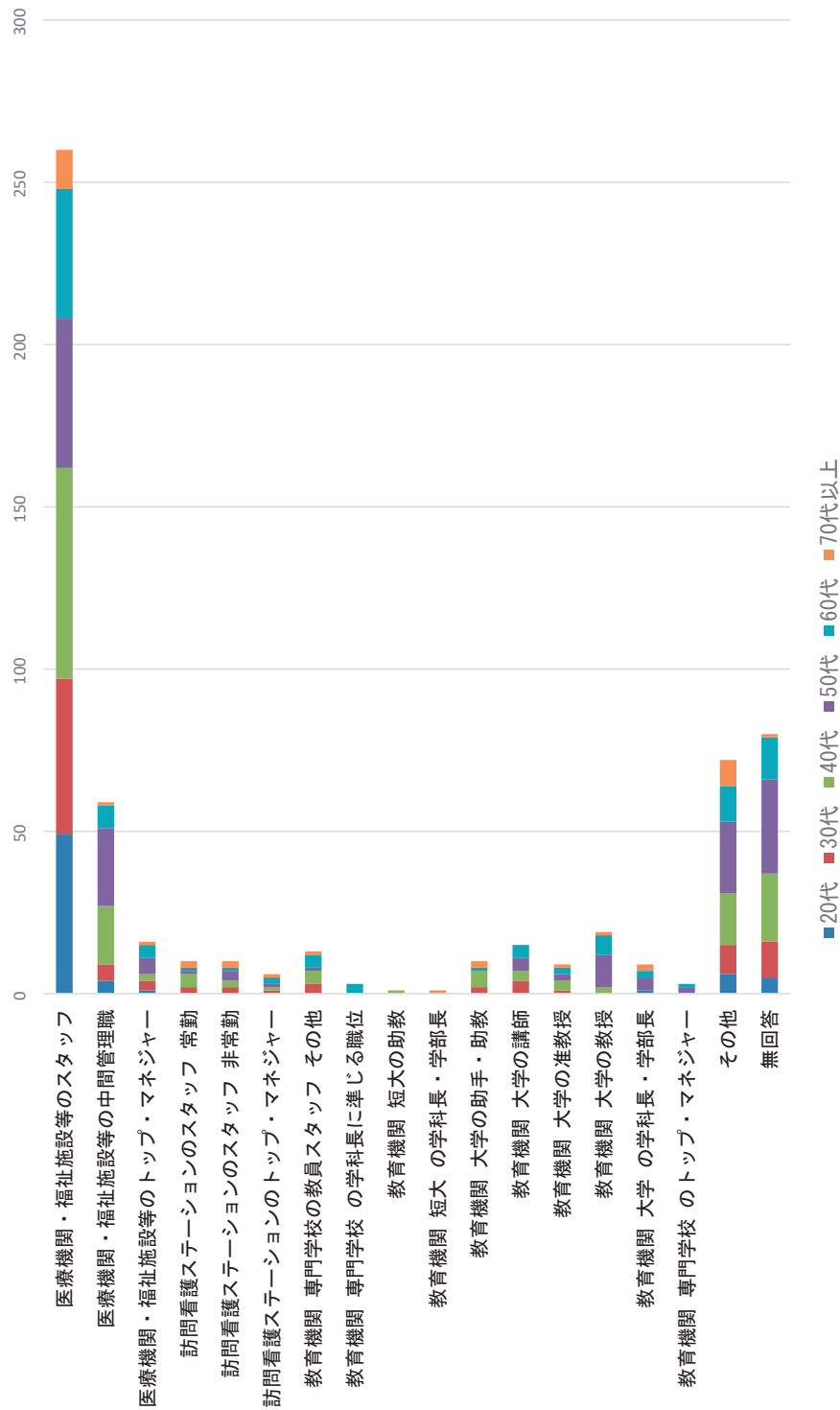
表Ⅲ－９ 卒業・修了した教育機関群別の現在の職業（職種）

群別（n）	看護師	保健師	助産師	訪問看護ステーション	ケアマネジャー	養護教諭	看護専門学校の教員	大学の教員	研修センターの教員	研究機関の研究職	その他
1群 (129)	68	14	5	4	3	2	7	13	1	1	3
%	52.7%	10.9%	3.9%	3.1%	2.3%	1.6%	5.4%	10.1%	0.8%	0.8%	4.8%
2群 (137)	79	9	9	7	3	1	5	5	0	0	4
%	57.7%	6.6%	6.6%	5.1%	2.2%	0.7%	3.6%	3.6%	0.0%	0.0%	4.4%
3群 (216)	120	38	4	3	3	3	6	16	0	1	4
%	55.6%	17.6%	1.9%	1.4%	1.4%	1.4%	2.8%	7.4%	0.0%	0.5%	2.9%
4群 (102)	47	2	11	2	0	1	2	26	0	0	9
%	46.1%	2.0%	10.8%	2.0%	0.0%	1.0%	2.0%	25.5%	0.0%	0.0%	6.6%
5群 (10)	5	1	0	2	0	0	0	0	0	0	2
%	50.0%	10.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%
総計 (594)	319	64	29	18	9	7	20	60	1	2	28
%	53.7%	10.8%	4.9%	3.0%	1.5%	1.2%	3.4%	10.1%	0.2%	0.3%	4.7%

無回答3名を除く

## (2) 現在の職位

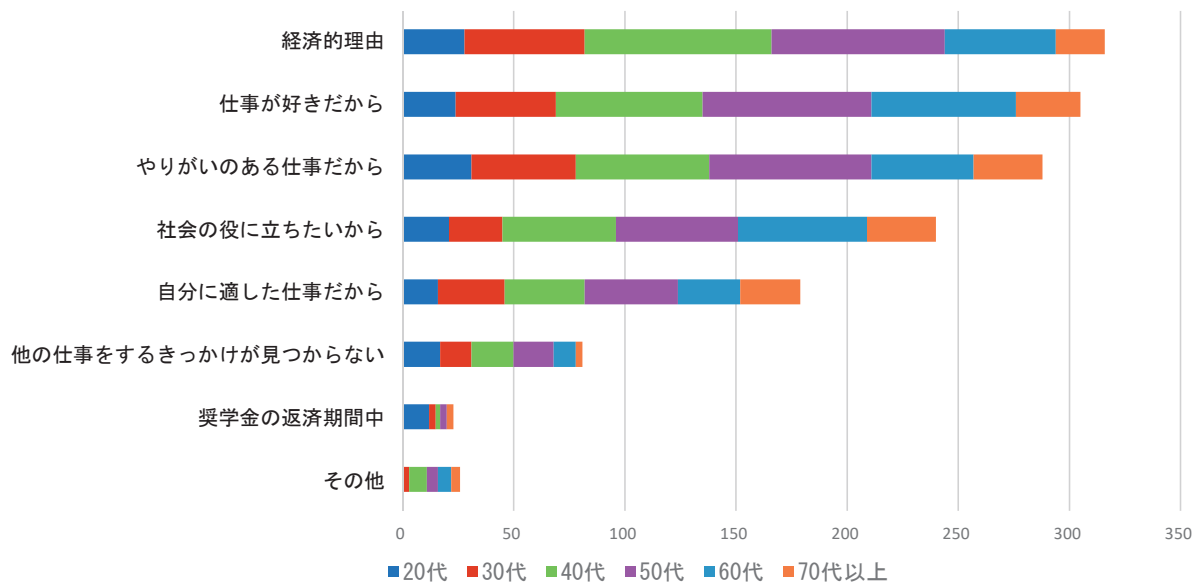
いずれの年代においても、医療機関・福祉施設等のスタッフが多かった（図Ⅲ－２）。年代が上がるにつれ、医療機関・福祉施設等の中間管理職（看護副部長、師長、課長）の割合が増える傾向にあった。



図Ⅲ-2 年代別の現在の職位 (n=596)

### (3) 仕事を継続する理由

全体では「経済的理由」「仕事が好きだから」「やりがいのある仕事だから」の順であった(図Ⅲ-3)。年代別では、20代は「やりがいのある仕事だから」、30代から50代は「経済的理由」、60代は「仕事が好きだから」、70代以上は「社会の役に立ちたいから」「やりがいのある仕事だから」が多かった(表Ⅲ-10)。群別は表Ⅲ-11参照。



図Ⅲ-3 年代別の仕事を継続する理由 (最もあてはまるもの3つ) (n=603)

表Ⅲ-10 年代別の仕事を継続する理由 (最もあてはまるもの3つ)

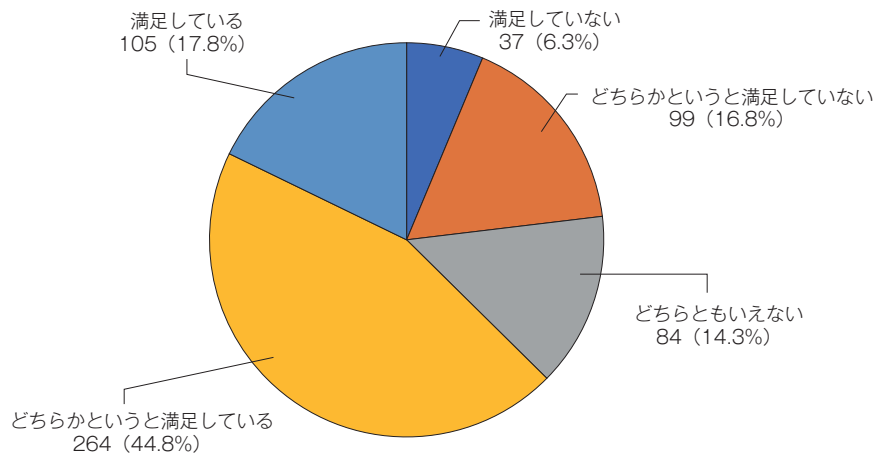
年代 (n)	仕事が好きだから	社会の役に立ちたいから	経済的理由	やりがいのある仕事だから	自分に適した仕事だから	他の仕事をするきっかけが見つからない	奨学金の返済期間中	その他
20代 (66)	24	21	28	31	16	17	12	0
%	36.4%	31.8%	42.4%	47.0%	24.2%	25.8%	18.2%	0.0%
30代 (92)	45	24	54	47	30	14	3	3
%	48.9%	26.1%	58.7%	51.1%	32.6%	15.2%	3.3%	3.3%
40代 (148)	66	51	84	60	36	19	2	8
%	44.6%	34.5%	56.8%	40.5%	24.3%	12.8%	1.4%	5.4%
50代 (155)	76	55	78	73	42	18	3	5
%	49.0%	35.5%	50.3%	47.1%	27.1%	11.6%	1.9%	3.2%
60代 (106)	65	58	50	46	28	10	0	6
%	63.7%	56.9%	49.0%	45.1%	27.5%	9.8%	0.0%	5.9%
70代以上 (36)	29	31	22	31	27	3	3	4
%	87.9%	90.9%	66.7%	90.9%	78.8%	9.1%	9.1%	12.1%
総数 (603)	305	240	316	288	179	81	23	26

表Ⅲ－11 卒業・修了した教育機関群別にみた仕事を継続する理由（最もあてはまるもの3つ）

年代 (n)	仕事が好きだから	から 社会の役に立ちたい	経済的理由	だから やりがいのある仕事	から 自分に適した仕事だ	かけが見つかからない	他の仕事をするきつ	奨学金の返済期間中	その他
1群 (129)	67	51	47	46	30	8	1	6	
%	51.9%	39.5%	36.4%	35.7%	23.3%	6.2%	0.8%	4.7%	
2群 (137)	63	49	62	53	33	14	1	4	
%	46.0%	35.8%	45.3%	51.1%	24.1%	10.2%	0.7%	2.9%	
3群 (216)	84	65	108	89	36	34	12	10	
%	38.9%	30.1%	50.0%	40.5%	24.5%	15.7%	5.6%	4.6%	
4群 (102)	46	28	55	46	10	13	7	3	
%	45.1%	27.5%	53.9%	47.1%	9.8%	12.7%	6.9%	2.9%	
5群 (11)	4	4	0	5	2	1	0	2	
%	36.4%	56.9%	0.0%	45.1%	18.2%	9.1%	0.0%	18.2%	
総数 (595)	305	240	316	288	179	81	23	26	

(4) 現在の仕事に対する満足度

現在の仕事に対する満足度は、「満足している (17.8%)」「どちらかといえば満足している (44.8%)」合わせて6割程度であった (図Ⅲ－4)。年代別の分析では、全体の結果と同様の傾向を示したが、70代以上は「満足している (52.9%)」が「どちらかといえば満足している (32.4%)」を上回っていた。群別については表Ⅲ－13参照。



図Ⅲ－4 現在の仕事に対する満足度 (n=589)



表Ⅲ-12 年代別にみた現在の仕事に対する満足度

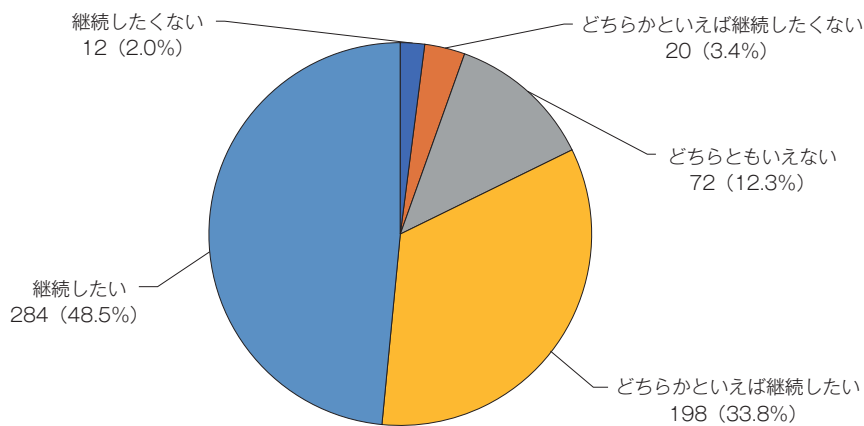
年代 (n)	満足していない		どちらかといえば満足していない		どちらともいえない		どちらかといえば満足している		満足している	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
20代 (66)	5	7.6%	13	19.7%	11	16.7%	29	43.9%	8	12.1%
30代 (92)	7	7.6%	19	20.7%	15	16.3%	41	44.6%	10	10.9%
40代 (145)	8	5.5%	25	17.2%	22	15.2%	66	45.5%	24	16.6%
50代 (151)	12	7.9%	26	17.2%	22	14.6%	65	43.0%	26	17.2%
60代 (101)	5	5.0%	14	13.9%	11	10.9%	52	51.5%	19	18.8%
70代以上 (34)	0	0.0%	2	5.9%	3	8.8%	11	32.4%	18	52.9%
総数 (589)	37	6.3%	99	16.8%	84	14.3%	264	44.8%	105	17.8%

表Ⅲ-13 卒業・修了した教育機関群別にみた現在の仕事に対する満足度

群別 (n)	満足していない		どちらかといえば満足していない		どちらともいえない		どちらかといえば満足している		満足している	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1群 (129)	9	7.0%	14	10.9%	15	11.6%	54	41.9%	34	26.4%
2群 (137)	8	5.8%	29	21.2%	13	9.5%	61	44.5%	23	16.8%
3群 (216)	14	6.5%	33	15.3%	39	18.1%	97	44.9%	31	14.4%
4群 (102)	7	6.9%	20	19.6%	16	15.7%	48	47.1%	11	10.8%
5群 (11)	0	0.0%	3	27.3%	0	0.0%	3	27.3%	5	45.5%
総計 (595)	38	6.4%	99	16.6%	83	13.9%	263	44.2%	104	17.5%

(5) 看護職としての継続意思

「継続したい」「どちらかといえば継続したい」合わせて8割であった(図Ⅲ-5)。いずれの年代においても、「継続したい」「どちらかといえば継続したい」の割合が多いが、20代と70代以上では、「どちらともいえない」も2割程度含まれていた(表Ⅲ-14)。



図Ⅲ-5 看護職としての継続意思 (n=586)

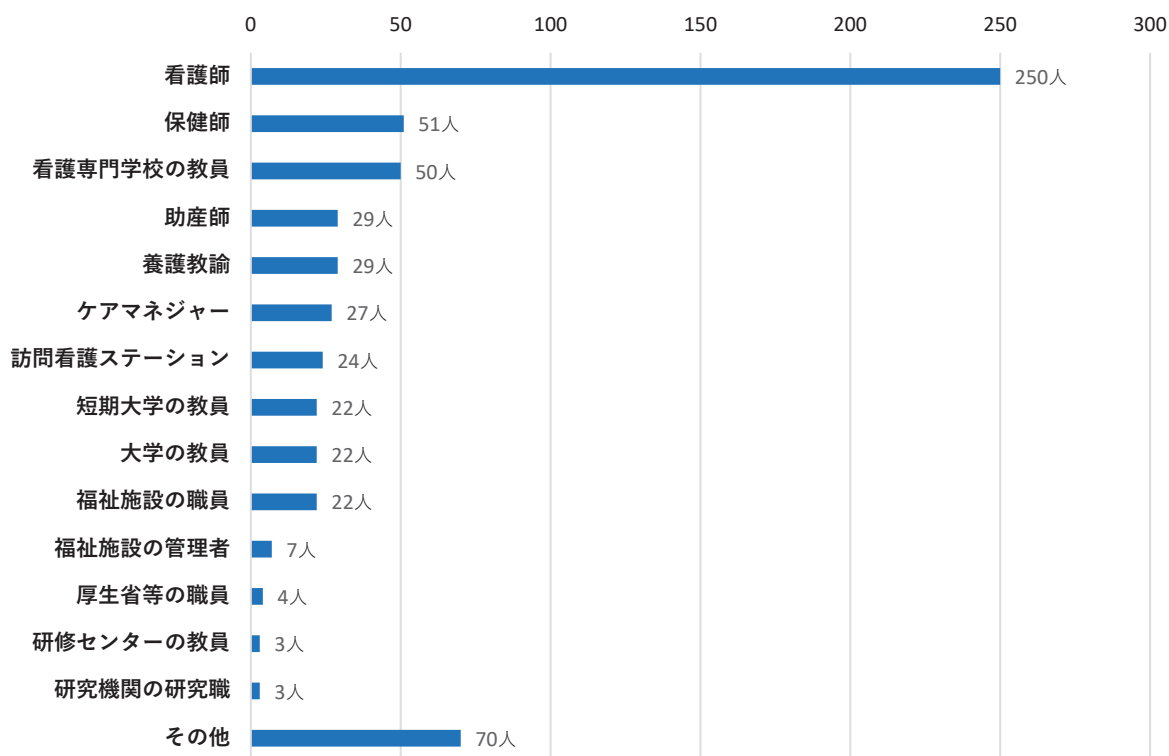
表Ⅲ-14 年代別の看護師としての継続意思

年代 (n)	継続したくない		どちらかといえば 継続したくない		どちらとも いえない		どちらかといえ ば継続したい		継続したい	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
20代 (66)	1	1.5%	2	3.0%	14	21.2%	28	42.4%	21	31.8%
30代 (92)	3	3.3%	3	3.3%	7	7.6%	29	31.5%	50	54.3%
40代 (146)	3	2.0%	2	1.4%	18	12.2%	45	30.4%	78	52.7%
50代 (149)	1	0.6%	7	4.5%	15	9.7%	49	31.6%	77	49.7%
60代 (100)	4	3.9%	3	2.9%	10	9.8%	39	38.2%	44	43.1%
70代以上 (33)	0	0.0%	3	6.1%	8	24.2%	8	24.2%	14	42.4%
総計 (586)	12	2.0%	20	3.4%	72	12.3%	198	33.8%	284	48.5%

## 5. 現在、看護職として仕事をしていない方を対象とした分析結果

### (1) これまで就いた職業（職種）

これまで就いた職業（職種）は、看護師が最も多く、次いで保健師、看護専門学校の教員であった（図Ⅲ-6）。



図Ⅲ-6 これまで就いた職業・職種について（複数回答）

## 第IV章 仕事と人生の充実度について

### 1. 仕事をもつことの意味

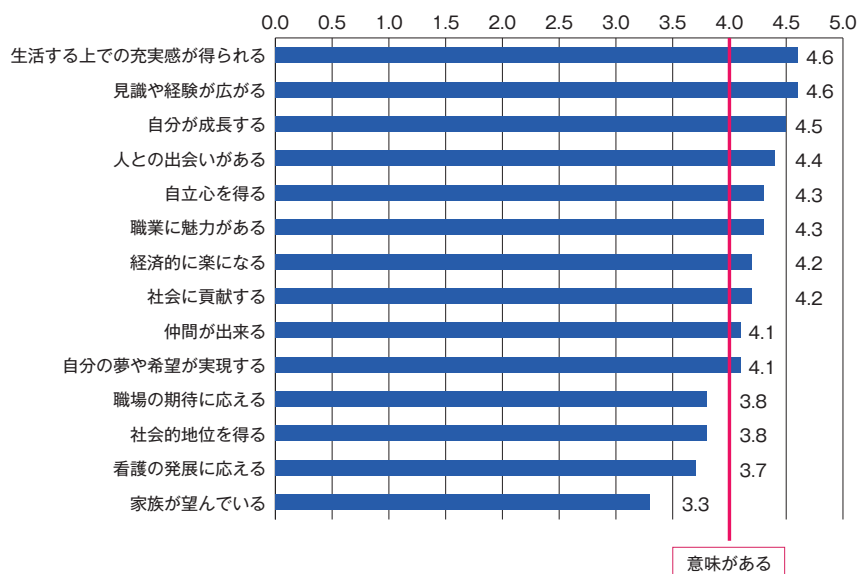
#### 1. 仕事をもつことはどのような意味があるか

「生活する上での充実感が得られる」(4.6±0.91)、「見識や経験が広がる」(4.6±0.96)、「自分が成長する」(4.5±1.00)という項目で平均値が高く、意味があると回答していた。また、平均値が4点未満の項目については、「職場の期待に応える」(3.8±1.22)、「社会的地位を得る」(3.8±1.31)、「看護の発展に応える」(3.7±1.24)、「家族が望んでいる」(3.3±1.28)であった(表IV-1、図IV-1)。

表IV-1 仕事をもつことの意味 (平均値と標準偏差)

	平均値	標準偏差
生活する上での充実感が得られる	4.6	0.91
見識や経験が広がる	4.6	0.96
自分が成長する	4.5	1.00
人との出会いがある	4.4	1.04
自立心を得る	4.3	1.07
職業に魅力がある	4.3	1.14
経済的に楽になる	4.2	1.09
社会に貢献する	4.2	1.12
仲間が出来る	4.1	1.14
自分の夢や希望が実現する	4.1	1.20
職場の期待に応える	3.8	1.22
社会的地位を得る	3.8	1.31
看護の発展に応える	3.7	1.24
家族が望んでいる	3.3	1.28

\*数値が高いほど「意味がある」ことを示す。(1～5点)



図IV-1 仕事をもつことの意味

年代別による違いはあまり見られなかったが、年代によって平均値が4点以上と4点未満が混在する項目があった（表Ⅳ－2）。具体的には、40代のみが4点未満だった項目が、「職業に魅力がある」、「社会に貢献する」、「自分の夢や希望が実現する」であった。また、40代～70代以上で4点未満だった項目は「社会的地位を得る」であった。「家族が望んでいる」については、すべての年代で4点未満であったが、70代以上は2.9点と最も低かった。

表Ⅳ－2 年代別にみた仕事をもつ意味

	年代 ( n )					
生活する上での充実感が得られる	20代 ( 78 )	30代 ( 109 )	40代 ( 175 )	50代 ( 181 )	60代 ( 169 )	70代以上 ( 207 )
見識や経験が広がる	4.4	4.5	4.4	4.7	4.4	4.6
自分が成長する	4.7	4.7	4.4	4.6	4.3	4.4
人との出会いがある	4.3	4.5	4.3	4.5	4.3	4.3
自立心を得る	4.5	4.4	4.1	4.3	4.1	4.3
職業に魅力がある	4.0	4.3	3.9	4.3	4.2	4.2
経済的に楽になる	4.4	4.3	4.2	4.3	4.1	3.9
社会に貢献する	4.2	4.2	3.9	4.2	4.1	4.0
仲間が出来る	4.4	4.1	4.0	4.2	4.1	4.2
自分の夢や希望が実現する	4.2	4.2	3.6	4.2	4.0	4.0
職場の期待に応える	3.7	3.9	3.7	3.8	3.8	3.7
社会的地位を得る	4.0	4.0	3.7	3.9	3.4	3.5
看護の発展に応える	3.7	3.8	3.5	3.7	3.7	3.7
家族が望んでいる	3.6	3.4	3.3	3.4	3.4	2.9

群別によって大きな違いがなかったが、全項目について5群が高い傾向にあった。「家族が望んでいる」という項目ではすべての群で平均値が4点未満であった(表Ⅳ-3)。

表Ⅳ-3 卒業・修了した教育機関群別による仕事をもつことの意味

	生活する上での 充実感が得られる		見識や経験が 広がる		自分が成長する		人との出会いが ある		自立心を得る		職業に魅力がある		経済的に楽になる	
	n	平均値	n	平均値	n	平均値	n	平均値	n	平均値	n	平均値	n	平均値
1群	264	4.8	259	4.7	258	4.7	260	4.6	258	4.4	260	4.5	260	4.4
2群	183	4.7	183	4.7	181	4.6	183	4.5	186	4.4	181	4.4	186	4.3
3群	257	4.6	256	4.7	257	4.7	257	4.5	257	4.5	254	4.3	257	4.4
4群	115	4.6	116	4.7	116	4.7	116	4.5	114	4.5	115	4.4	116	4.2
5群	80	4.8	79	4.8	79	4.7	78	4.7	79	4.6	75	4.8	76	4.4

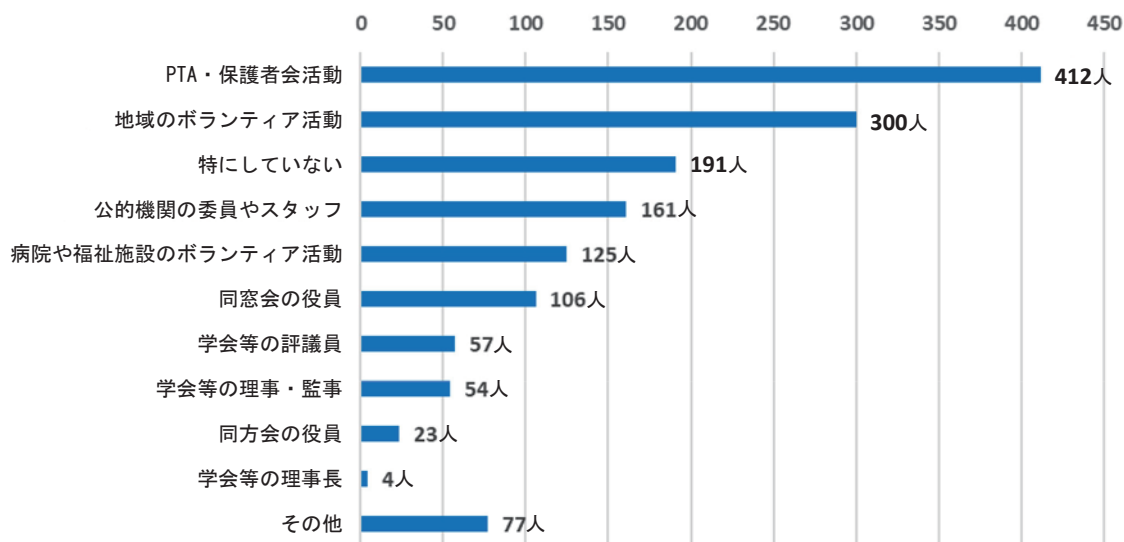
  

	社会に貢献する		仲間が出来る		自分の夢や希望 が実現する		職場の期待に 応える		社会的地位を 得る		看護の発展に 貢献する		家族が望んでいる	
	n	平均値	n	平均値	n	平均値	n	平均値	n	平均値	n	平均値	n	平均値
1群	256	4.4	259	4.4	257	4.3	254	4.1	255	3.9	255	3.9	255	3.5
2群	183	4.4	183	4.2	182	4.2	183	3.9	181	4.0	183	3.9	184	3.4
3群	255	4.2	253	4.2	255	4.2	257	3.9	256	4.0	255	3.7	255	3.6
4群	113	4.3	115	4.2	114	4.3	116	3.9	116	4.0	115	4.2	116	3.3
5群	78	4.6	78	4.6	72	4.6	73	4.3	69	4.2	74	4.4	66	3.8

## 2. 仕事以外の地域や社会での役割や活動

### 2. 仕事以外の地域や社会での役割（複数回答）

「PTA・保護者会活動」が最も多く（412人）、次に「地域のボランティア活動」（300人）で、「特にしていない」（191人）であった（図IV-2）。



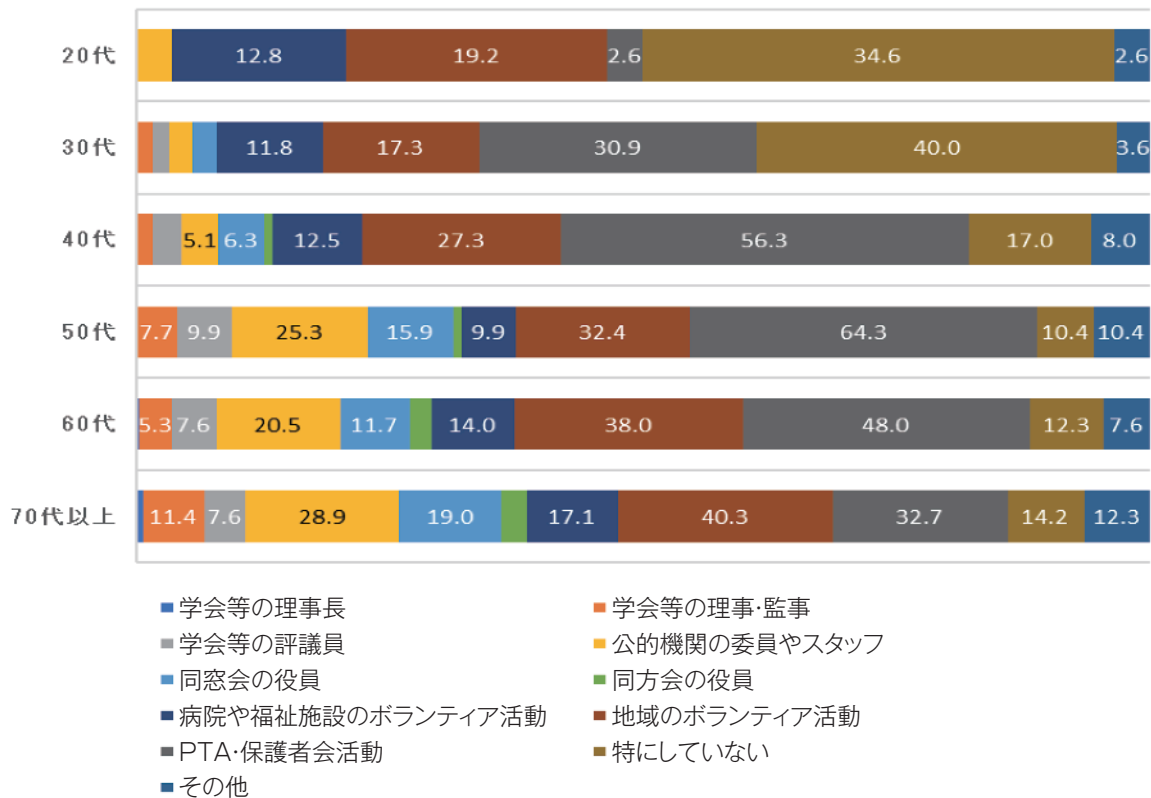
図IV-2 仕事以外の地域や社会での役割（複数回答）

年代別での違いは、20代や30代で「特にしていない」という割合が他の年代に比べて高く、20代で30%以上の割合の項目は他になかった。30代では「PTA・保護者会活動」が30.9%であったが、それ以外は20%未満であった。40代では「PTA・保護者会活動」が56.3%であり、「地域のボランティア活動」が27.3%であった。50代・60代・70代は「PTA・保護者会活動」や「地域のボランティア活動」が30%以上であり、「公的機関の委員やスタッフ」についても20%以上の回答であった（表IV-3、図IV-3）。

表Ⅳ-4 年代別にみた仕事以外の地域や社会での役割（複数回答）

年代（n）	学会等の理事長		学会等の理事・監事		学会等の評議員		公的機関の委員やスタッフ		同窓会の役員		同方会の役員	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
20代（78）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.6%	0	0.0%	0	0.0%
30代（110）	0	0.0%	2	1.8%	2	1.8%	3	2.7%	3	2.7%	0	0.0%
40代（176）	0	0.0%	4	2.3%	7	4.0%	9	5.1%	11	6.3%	2	1.1%
50代（182）	0	0.0%	14	7.7%	18	9.9%	46	25.3%	29	15.9%	3	1.6%
60代（171）	1	0.6%	9	5.3%	13	7.6%	35	20.5%	20	11.7%	6	3.5%
70代以上（211）	3	1.4%	24	11.4%	16	7.6%	61	28.9%	40	19.0%	10	4.7%

年代（n）	病院や福祉施設のボランティア活動		地域のボランティア活動		PTA・保護者会活動		特にしていない		その他	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
20代（78）	10	12.8%	15	19.2%	2	2.6%	27	34.6%	2	2.6%
30代（110）	13	11.8%	19	17.3%	34	30.9%	44	40.0%	4	3.6%
40代（176）	22	12.5%	48	27.3%	99	56.3%	30	17.0%	14	8.0%
50代（182）	18	9.9%	59	32.4%	117	64.3%	19	10.4%	19	10.4%
60代（171）	24	14.0%	65	38.0%	82	48.0%	21	12.3%	13	7.6%
70代以上（211）	36	17.1%	85	40.3%	69	32.7%	30	14.2%	26	12.3%



図Ⅳ-3 年代別にみた仕事以外の地域や社会での役割（割合）

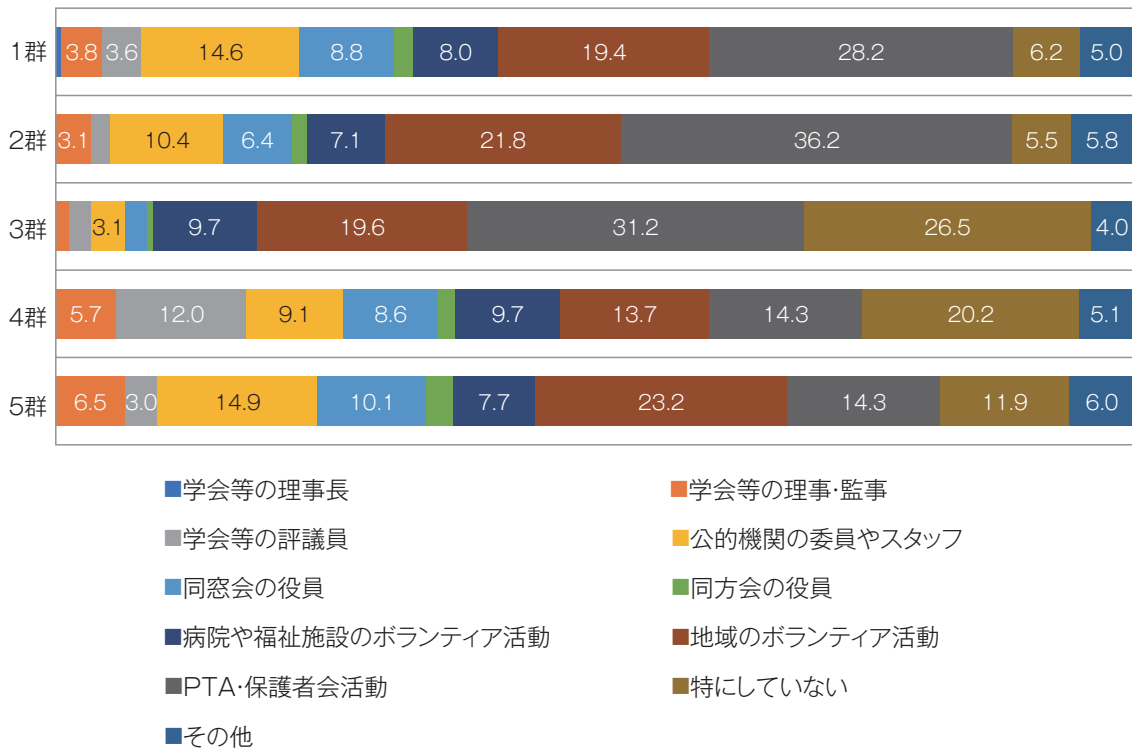
群別では1群、2群、3群で「PTA・保護者会活動」が最も多くなっていた（それぞれ52.4%、62.4%、38.8%）。1群、2群では、次いで「地域のボランティア活動」が30%代となっており、続いて「公的機関の委員やスタッフ」が18～27%程度であった。3群では「特にしていない」の回答が32.9%で2番目に多く、次いで「地域のボランティア活動」が24.4%であった。4群は「特にしていない」の回答が30.2%で最も多く、次いで「PTA・保護者会活動」が21.6%、「地域のボランティア活動」が20.7%であった。5群は「地域のボランティア活動」が43.3%で最も多く、次いで「公的機関の委員やスタッフ」が27.8%、「PTA・保護者会活動」が26.7%であった（表Ⅳ－5、図Ⅳ－4、図Ⅳ－5）。

表Ⅳ－5 卒業・修了した教育機関群別にみた仕事以外の地域や社会での役割（複数回答）

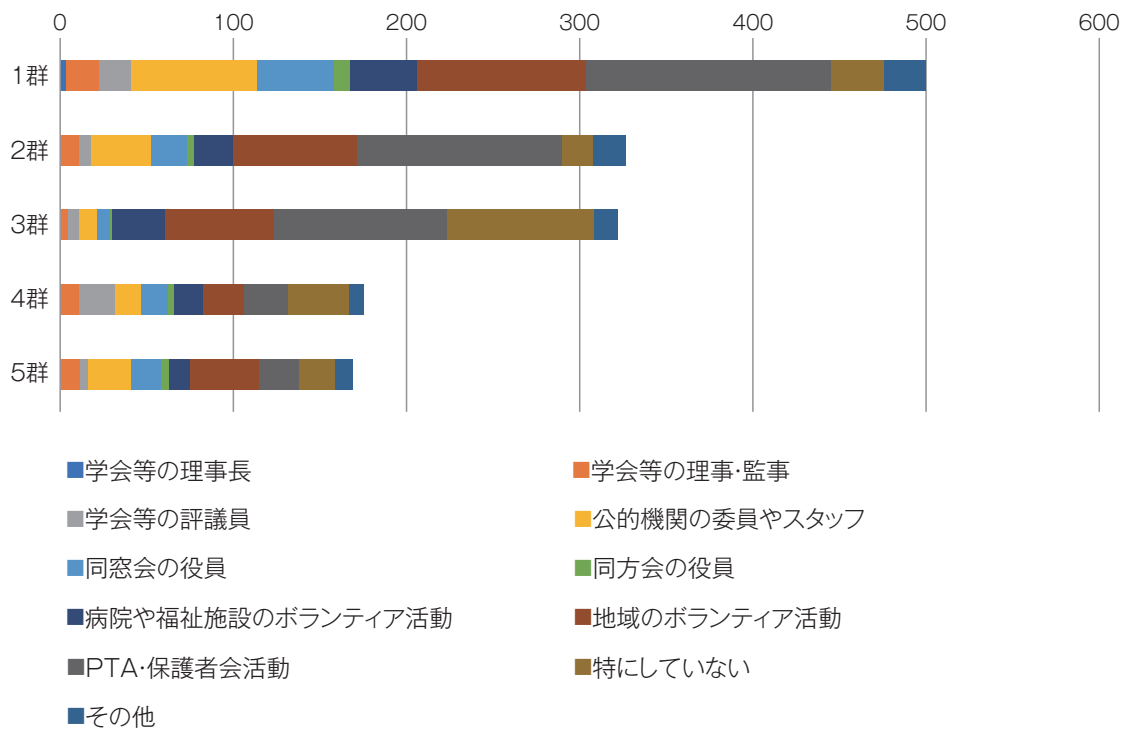
群別 (n)	学会等の 理事長		学会等の 理事・監事		学会等の 評議員		公的機関の 委員やスタッフ		同窓会の役員		同方会の 役員	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1群 (269)	3	1.1%	19	7.1%	18	6.7%	73	27.1%	44	16.4%	9	3.3%
2群 (189)	1	0.5%	10	5.3%	6	3.2%	34	18.0%	21	11.1%	5	2.6%
3群 (258)	0	0.0%	4	1.6%	7	2.7%	10	3.9%	7	2.7%	1	0.4%
4群 (116)	0	0.0%	10	8.6%	21	18.1%	16	13.8%	15	12.9%	3	2.6%
5群 (90)	0	0.0%	11	12.2%	5	5.6%	25	27.8%	17	18.9%	4	4.4%

群別 (n)	病院や福祉施設の ボランティア活動		地域の ボランティア活動		PTA・ 保護者会活動		特にしていない		その他	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1群 (269)	40	14.9%	97	36.1%	141	52.4%	31	11.5%	25	9.3%
2群 (189)	23	12.2%	71	37.6%	118	62.4%	18	9.5%	19	10.1%
3群 (258)	31	12.0%	63	24.4%	100	38.8%	85	32.9%	13	5.0%
4群 (116)	17	14.7%	24	20.7%	25	21.6%	35	30.2%	9	7.8%
5群 (90)	13	14.4%	39	43.3%	24	26.7%	20	22.2%	10	11.1%





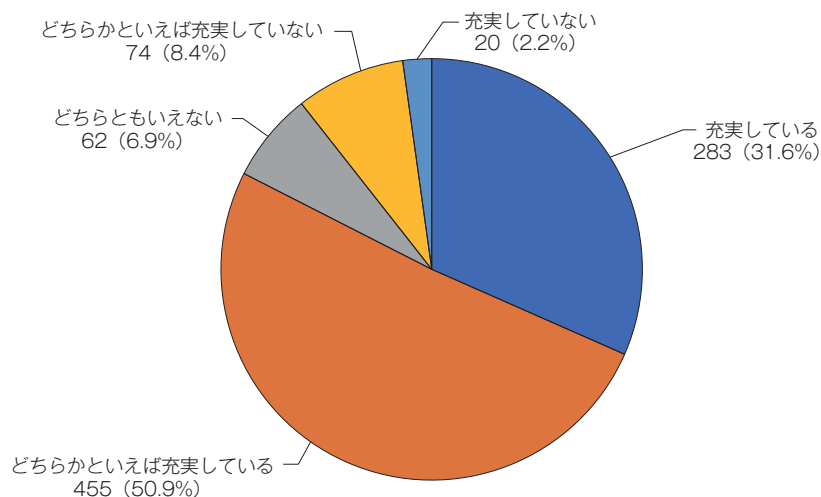
図Ⅳ－４ 卒業・修了した教育機関群別にみた仕事以外の地域や社会での役割(割合)



図Ⅳ－５ 卒業・修了した教育機関群別にみた仕事以外の地域や社会での役割(人数)

### 3. 人生の充実度

「どちらかといえば充実している」が50.9%、次いで「充実している」が31.6%であり、約80%が充実していると答えていた（図Ⅳ－6）。



図Ⅳ－6 人生の充実度 (n=894)

年代別では、どの年代でも「どちらかといえば充実している」が最も多く、次いで多いのが「充実している」であった。20代では他の年代と比べて「どちらともいえない」が13.3%でやや多く、30代と40代では「どちらかといえば充実していない」が10%を超えていて、他の年代よりもやや多かった（表Ⅳ－6）。

表Ⅳ－6 年代別にみた人生の充実度

年代 (n)	充実していない		どちらかといえば 充実していない		どちらとも いえない		どちらかといえば 充実している		充実している	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
20代 (75)	2	2.7%	6	8.0%	10	13.3%	33	44.0%	24	32.0%
30代 (108)	2	1.9%	11	10.2%	7	6.5%	55	50.9%	33	30.6%
40代 (169)	6	3.6%	19	11.2%	10	5.9%	84	49.7%	50	29.6%
50代 (179)	4	2.2%	14	7.8%	11	6.1%	96	53.6%	54	30.2%
60代 (164)	4	2.4%	13	7.9%	12	7.3%	82	50.0%	53	32.3%
70代以上 (199)	2	1.0%	11	5.5%	12	6.0%	105	52.8%	69	34.7%
総数 (894)	20	2.2%	74	8.4%	62	6.9%	455	50.9%	283	31.6%

群別による違いはあまりなく、どの群でも「どちらかといえば充実している」が最も多く、次いで多いのが「充実している」であった。3群、4群では「どちらかといえば充実していない」が10%を超えていて、他の群よりもやや多かった（表Ⅳ－7）。

表Ⅳ－7 卒業・修了した教育機関群別にみた人生の充実度

群別 ( n )	充実していない		どちらかといえば 充実していない		どちらとも いえない		どちらかといえば 充実している		充実している	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1群 (265)	6	2.3%	21	7.9%	15	5.7%	135	50.9%	88	33.2%
2群 (185)	6	3.2%	8	4.3%	15	8.1%	99	53.5%	57	30.8%
3群 (251)	7	2.8%	28	11.2%	17	6.8%	117	46.6%	82	32.7%
4群 (115)	1	0.9%	15	13.0%	9	7.8%	63	54.8%	27	23.5%
5群 ( 84)	0	0.0%	4	4.8%	6	7.1%	44	52.4%	30	35.7%
(900)	20	2.2%	76	8.4%	62	6.9%	458	50.9%	284	31.6%

## 第V章 赤十字の看護教育について

### 1. 赤十字の看護教育を通して身についたと思う力

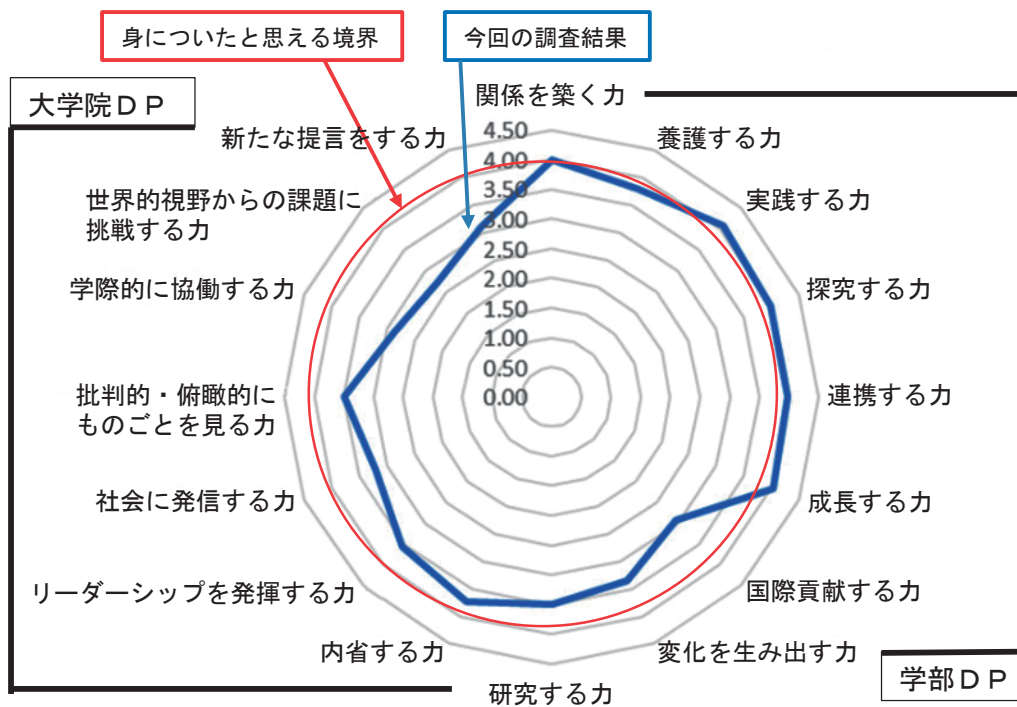
#### (1) ディプロマポリシーからみる赤十字の看護教育を通して身についた力

現在の学部および大学院ディプロマポリシー（以下、DP）を基に、赤十字の看護教育を通して身についた力を「1. 身につけていない」「2. どちらかといえば身につけていない」「3. どちらともいえない」「4. どちらかといえば身についた」「5. 身についた」の1～5段階で回答し、点数化した。

学部DPで平均が3.5を下回るものは「国際貢献する力」「変化を生み出す力」、大学院DPで平均が3.5を下回るものは「社会に発信する力」「批判的・俯瞰的にものごとを見る力」「学際的に協働する力」「世界的視野から課題に挑戦する力」「新たな提言をする力」であった。このうち3.0を下回るものは「国際貢献する力」「学際的に協働する力」「世界的視野から課題に挑戦する力」であった（表V-1、図V-1）。

表V-1 ディプロマポリシーからみる赤十字の看護教育を通して身についた力

	平均値	標準偏差
関係を築く力	4.1	0.75
擁護する力	4.0	0.82
実践する力	4.2	0.73
探求する力	4.2	0.76
連携する力	4.1	0.77
成長する力	4.2	0.78
国際貢献する力	3.1	1.09
変化を生み出す力	3.5	0.95
研究する力	3.7	1.00
内省する力	3.9	0.84
リーダーシップを発揮する力	3.7	0.89
社会に発信する力	3.4	0.95
批判的・俯瞰的にものごとを見る力	3.7	0.91
学際的に協働する力	3.0	1.03
世界的視野からの課題に挑戦する力	2.9	1.09
新たな提言をする力	3.3	1.01



図V-1 ディプロマポリシーからみる赤十字の看護教育を通して身についた力

## (2) 教育機関群別にみる赤十字の看護教育を通して身についた力

最も高い力は、1群～3群では「実践する力」、4群は「探究する力」、5群は「連携する力」および「成長する力」であった。最も低い力は、全ての群において「世界的視野からの課題に挑戦する力」であった（表V-2）。一方、大学院修了生である4群は全体的に他の群に比べて比較的评价が高く、「研究する力」「内省する力」「批判的・俯瞰的にものごとを見る力」は他群より高かった。

表V-2 卒業・修了した教育機関群別にみる赤十字の看護教育を通して身についた力

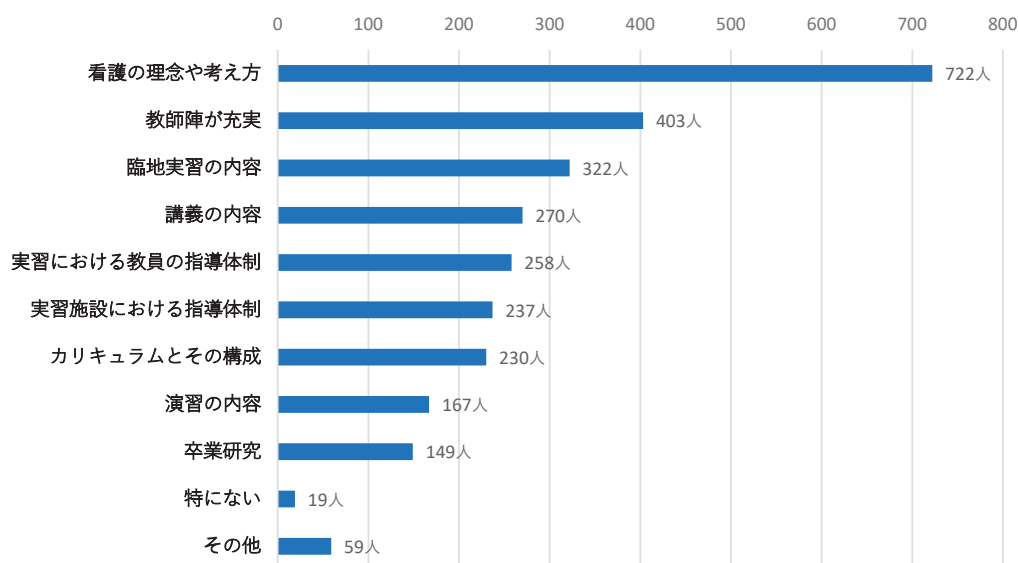
	(平均値)				
	1群	2群	3群	4群	5群
関係を築く力	4.1	4.1	4.1	4.2	4.4
擁護する力	4.1	3.9	3.9	4.0	4.1
実践する力	4.3	4.2	4.2	4.2	4.3
探究する力	4.0	4.0	4.1	4.6	4.3
連携する力	4.1	4.1	4.0	4.2	4.5
成長する力	4.1	4.1	4.1	4.4	4.5
国際貢献する力	3.0	3.1	3.2	3.2	3.2
変化を生み出す力	3.5	3.4	3.5	3.9	3.6
研究する力	3.5	3.4	3.6	4.4	3.8
内省する力	3.8	3.8	3.9	4.4	4.0
リーダーシップを発揮する力	3.7	3.7	3.6	3.7	4.1
社会に発信する力	3.4	3.2	3.3	3.5	3.8
批判的・俯瞰的にものごとを見る	3.5	3.4	3.7	4.3	3.7
学際的に協働する力	2.9	2.8	3.1	3.5	3.0
世界的視野からの課題に挑戦する力	2.8	2.7	3.0	3.1	2.9
新たな提言をする力	3.2	3.1	3.3	3.5	3.1

学部D  
P  
  
大学院D  
P

     各群で平均値が最も高いもの  
     他群に比べて平均値が高いもの  
     全ての群において平均値が最も低いもの

## 2. 赤十字の看護教育を受けて良かったこと

赤十字の看護教育を受けて良かったこととして「看護の理念や考え方」が最も多い回答であった(図V-2)。



図V-2 赤十字の看護教育を受けて良かったこと (複数回答)

### (1) 年代別にみる赤十字の看護教育を受けて良かったこと

「看護の理念や考え方」は全ての年代において5割以上の回答があり、年代が高くなるにつれ回答率も高くなる傾向があった。「教師陣が充実」は20代、30代、40代に5割以上の回答があったが、60代および70代以上では3割弱であった。「カリキュラムとその構成」は20代および30代が3割の回答で、年代が高くなるにつれて回答率が低くなる傾向があった。その他の項目において全ての年代において5割を超える回答はなかった(表V-3)。

5割以上の回答があったものを赤枠  で示した。

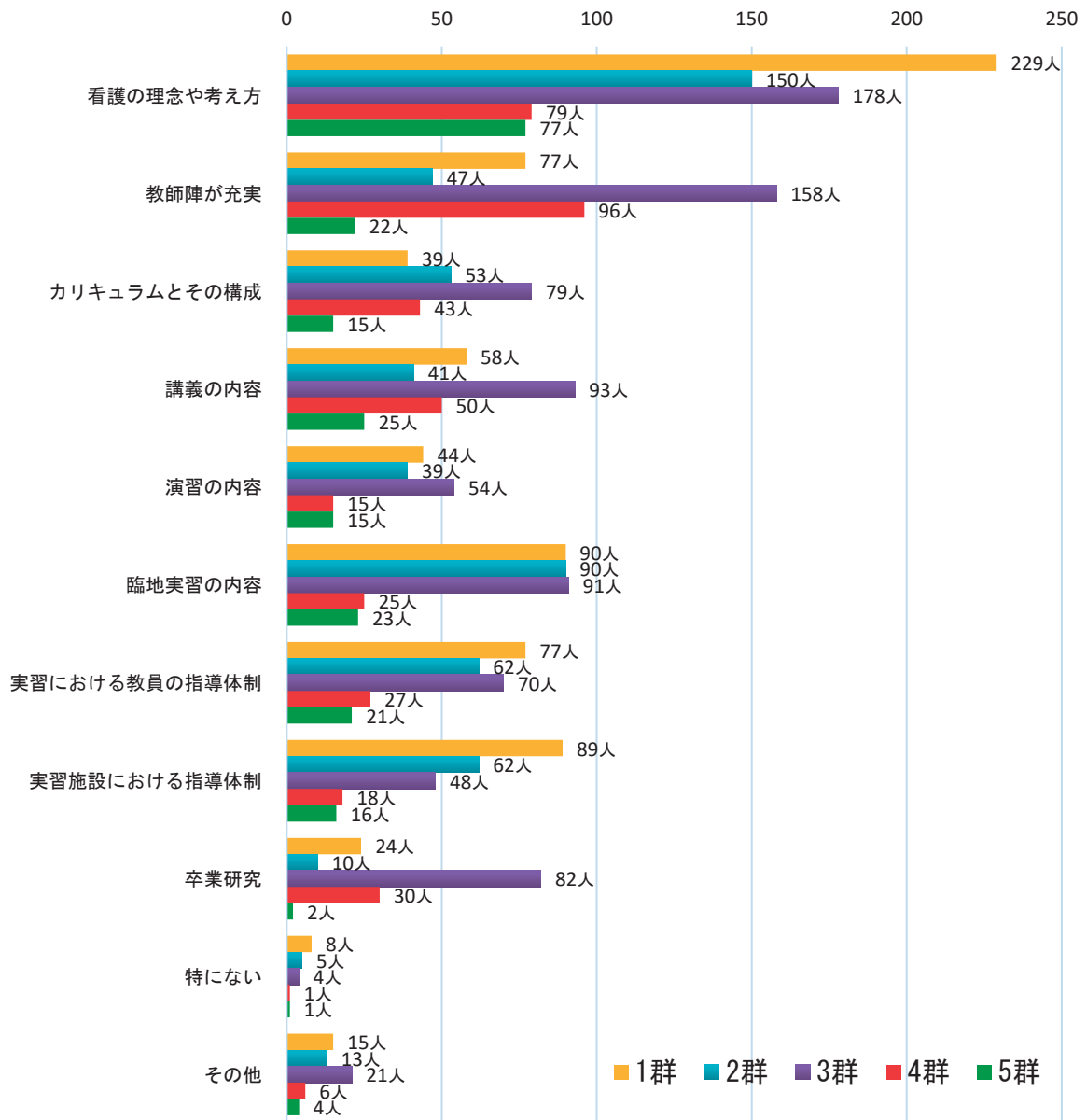
表V-3 年代別にみる赤十字の看護教育を受けて良かったこと(複数回答)

年代	看護の理念や考え方		教師陣が充実		カリキュラムとその構成		講義の内容		演習の内容	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
20代	45	57.7%	43	55.1%	24	30.8%	29	37.2%	24	30.8%
30代	72	65.5%	74	67.3%	41	37.3%	33	30.0%	23	20.9%
40代	127	72.2%	99	56.3%	51	29.0%	63	35.8%	20	11.4%
50代	146	80.2%	82	45.1%	41	22.5%	45	24.7%	41	22.5%
60代	155	90.6%	48	28.1%	27	15.8%	30	17.5%	32	18.7%
70代以上	173	82.0%	52	24.6%	36	17.1%	55	26.1%	31	14.7%

年代	臨地実習の内容		実習における教員の指導体制		実習施設における指導体制		卒業研究		特にない	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
20代	32	41.0%	28	35.9%	24	30.8%	22	28.2%	2	2.6%
30代	43	39.1%	30	27.3%	26	23.6%	37	33.6%	—	—
40代	48	27.3%	48	27.3%	25	14.2%	43	24.4%	3	1.7%
50代	68	37.4%	59	32.4%	39	21.4%	20	11.0%	5	2.7%
60代	58	33.9%	39	22.8%	59	34.5%	13	7.6%	5	2.9%
70代以上	65	30.8%	59	28.0%	54	25.6%	12	5.7%	2	0.9%

### (2) 教育機関群別にみる赤十字の看護教育を受けて良かったこと

「看護の理念や考え方」を最も多く回答している教育機関は1群、「教師陣が充実」は3群、「カリキュラムとその構成」は3群、「講義の内容」は3群、「演習の内容」は3群、「臨地実習の内容」は3群、「実習における教員の指導体制」は1群、「実習施設における指導体制」は1群、「卒業研究」は3群であった。学部卒業生である3群が他の群に比べ教師陣や教育内容を良かった点として回答している。一方、1群は他の群に比べ「看護の理念や考え方」や実習に関する指導体制を良かった点として回答している。また、群別の回答割合をみると、「看護の理念や考え方」は他の項目に比べどの群別においても高い割合であった。唯一、4群のみ他の項目に比べ「教師陣が充実」を最も多く回答していた(図V-3)。

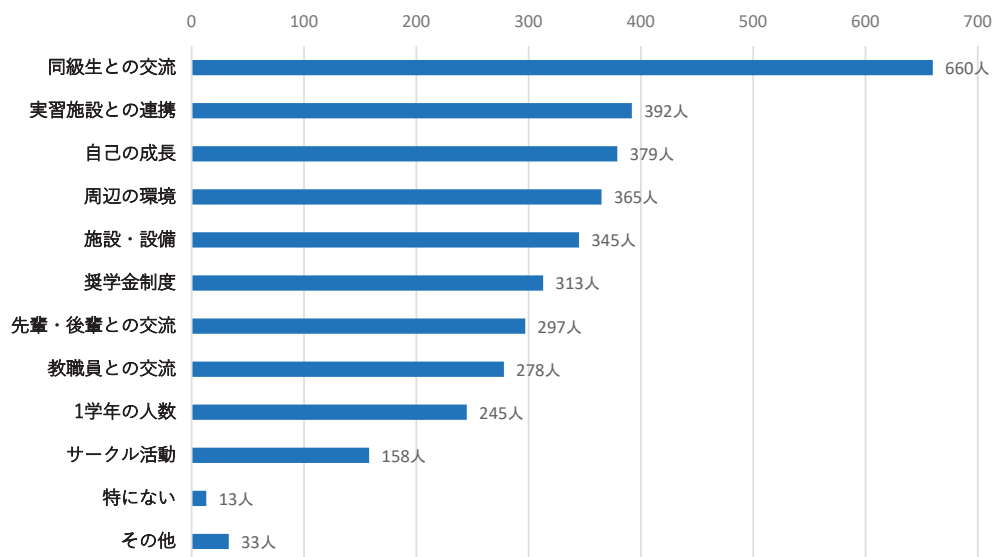


図V-3 卒業・修了した教育機関群別にみた赤十字教育を受けて良かったこと（複数回答）



### 3. 学生生活で良かったこと

「同級生との交流」が最も多い回答が得られ、次いで「実習施設との連携」「自己の成長」「周辺の環境」「施設・設備」などであった（図V-4）。



図V-4 学生生活でよかったこと（複数回答）

#### （1）年代別でみる学生生活で良かったこと

「施設・設備」は50代が最も高く、「実習施設との連携」は30代、「周辺の環境」は20代、「教職員との交流」は40代、「奨学金制度」は60代、「1学年の人数」は30代、「同級生の交流」は70代以上、「先輩・後輩との交流」は60代、「サークル活動」は30代、「自己の成長」は70代以上であった（表V-4）。上記について赤枠  で示した。

表V-4 年代別にみる学生生活で良かったこと（複数回答）

年代 (n)	施設・設備		実習施設との連携		周辺の環境		教職員との交流		奨学金制度	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
20代 (78)	51	65.4%	33	42.3%	36	46.2%	30	38.5%	24	30.8%
30代 (110)	72	65.5%	74	67.3%	41	37.3%	36	32.7%	23	20.9%
40代 (176)	128	72.7%	99	56.3%	51	29.0%	71	40.3%	20	11.4%
50代 (182)	146	80.2%	82	45.1%	48	26.4%	45	24.7%	41	22.5%
60代 (171)	61	35.7%	74	43.3%	62	36.3%	36	21.1%	66	38.6%
70代以上 (211)	85	40.3%	77	36.5%	89	42.2%	44	20.9%	47	22.3%

年代 (n)	1学年の人数		同級生との交流		先輩・後輩との交流		サークル活動		自己の成長	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
20代 (78)	16	20.5%	44	56.4%	11	14.1%	15	19.2%	37	47.4%
30代 (110)	43	39.1%	28	25.5%	25	22.7%	37	33.6%	—	—
40代 (176)	48	27.3%	48	27.3%	25	14.2%	43	24.4%	2	1.1%
50代 (182)	65	35.7%	52	28.6%	44	24.2%	21	11.5%	5	2.7%
60代 (171)	42	24.6%	120	70.2%	70	40.9%	33	19.3%	59	34.5%
70代以上 (211)	31	14.7%	152	72.0%	75	35.5%	39	18.5%	79	37.4%

(2) 群別にみる学生生活で良かったこと

「同級生との交流」は全ての群において最も高かった。1群は次いで「周辺の環境」が高く、2群では「奨学金制度」、3群では「自己の成長」、4群では「教職員との交流」、5群では「施設・設備」であった（表V-5）。上記について赤枠  で示した。

表V-5 卒業・修了した教育機関群別にみる学生生活で良かったこと（複数回答）

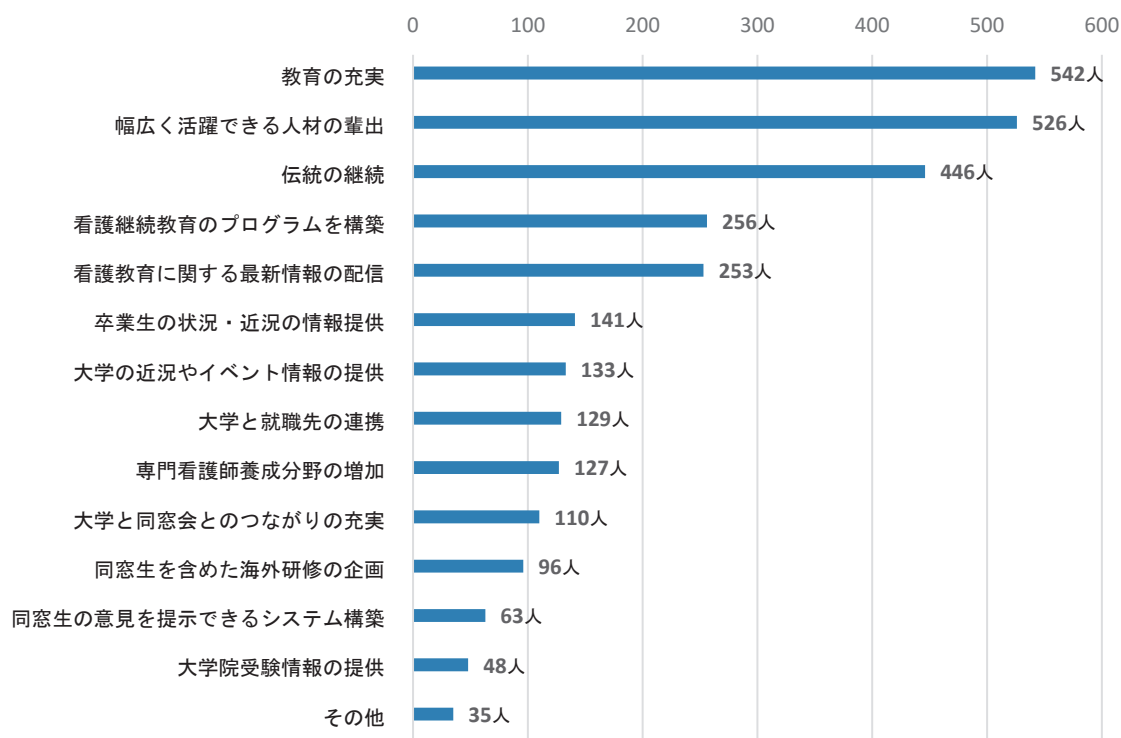
群別 (n)	施設・設備		実習施設との連携		周辺の環境		教職員との交流		奨学金制度		1学年の人数	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1群 (269)	102	37.9%	113	42.0%	122	45.4%	60	22.3%	85	31.6%	77	28.6%
2群 (189)	41	21.7%	77	40.7%	57	30.2%	50	26.5%	78	41.3%	48	25.4%
3群 (258)	108	41.9%	96	37.2%	104	40.3%	86	33.3%	92	35.7%	72	27.9%
4群 (116)	49	42.2%	30	25.9%	39	33.6%	59	50.9%	33	28.4%	23	19.8%
5群 (90)	42	46.2%	33	36.3%	37	40.7%	19	20.9%	20	22.0%	23	25.3%

群別 (n)	同級生との交流		先輩・後輩との交流		サークル活動		自己の成長		特にない		その他	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1群 (269)	201	74.7%	106	39.4%	52	19.3%	102	37.9%	1	0.4%	9	3.3%
2群 (189)	131	69.3%	62	32.8%	37	19.6%	70	37.0%	5	2.6%	10	5.3%
3群 (258)	179	69.4%	55	21.3%	43	16.7%	111	43.0%	4	1.6%	10	3.9%
4群 (116)	84	72.4%	40	34.5%	13	11.2%	56	48.3%	1	0.9%	7	6.0%
5群 (90)	60	65.9%	30	33.0%	12	13.2%	37	40.7%	1	1.1%	3	3.3%

# 第Ⅵ章 今後の大学や同窓会の ネットワークづくりについて

## 1. 日本赤十字看護大学・同窓会に望むこと

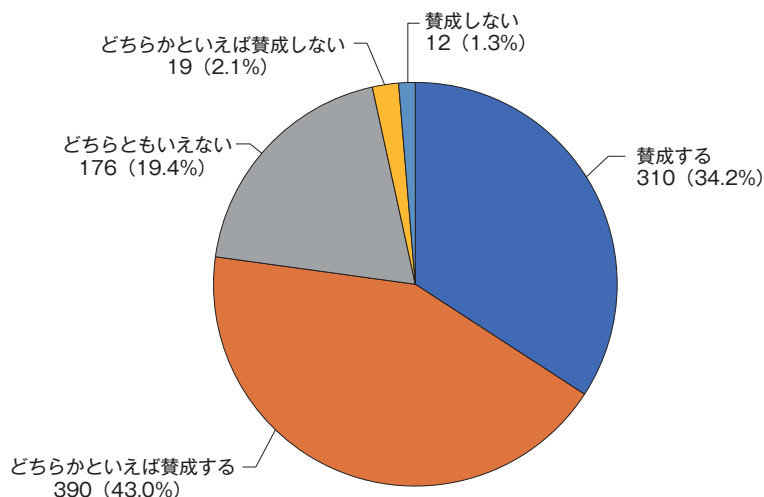
もっとも多かったのは「教育の充実」で542名であった。次いで「幅広く活躍できる人材の輩出」、「伝統の継続」が続いていた。継続教育への希望として卒後の教育プログラムへのニーズも多かった。大学の近況、イベント等の情報発信の希望がそれに続いていた（図Ⅵ-1）。



図Ⅵ-1 大学・同窓会に望むこと（複数回答）

## 2. 同窓生のネットワーク

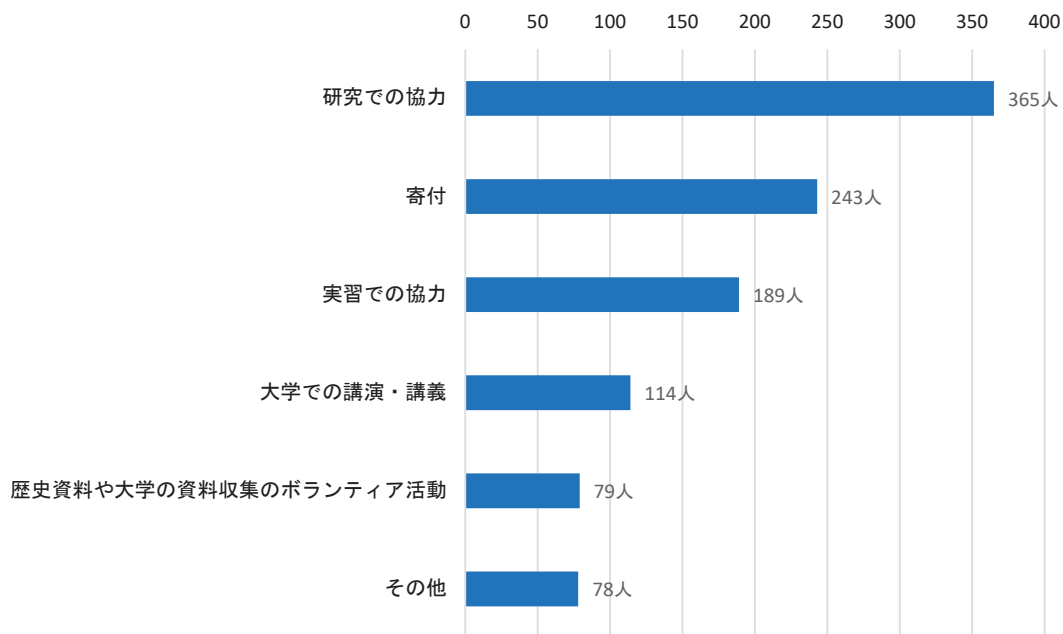
同窓生へのネットワークづくりに関して、「どちらかといえば賛成する」(43.0%)、「賛成する」(34.2%)と合わせると78.2%がネットワークづくりに賛成していた(図VI-2)。



図VI-2 同窓生のネットワークづくりについて (n=907)

## 3. 母校の発展のために協力できること

もっとも多かったのは「研究での協力」365名で、次いで「寄付」、「実習での協力」であった。「大学での講演や講義」、「歴史資料や大学の資料収集のボランティア活動」への協力も回答があった(図VI-3)。



図VI-3 母校の発展のために協力してよいと思えること (複数回答)

#### 4. 同窓会や大学に期待すること

大学への期待を中心に自由記述欄の記載内容を、内容によって項目毎に分類した。合計136件の記述があった。そのうち大学に関する記述は88件であった（表Ⅵ-1）。

意見や感想も含めて最も多かったのは、「赤十字への誇りと発展への期待」（21件）であった。赤十字教育への誇りや感謝、その後の看護職人生での基盤であったこと、ゆえに発展を願うという記述がほとんどであった。次いで、赤十字の精神を大切にしたい教育を願う、看護の本質を大切にする教育への要望であった。

地方にいと情報が少ないことや、卒後の学習へのニーズに関する要望も多かった。また、看護の分野や地域性にこだわらない広い視野を持つ人材育成、リーダーシップをもつ看護職育成に関する教育への意見があった。

表Ⅵ-1 大学への期待に関する記述内容の分類

88件/136件

項目	件数	記述内容の抜粋
赤十字への誇りと発展への期待	21	長い間、看護の仕事をしてきて赤十字の学校で学べたことは私の誇りです。看護の考え方は赤十字は素晴らしいです。 赤十字を卒業した看護師として誇りをもって仕事ができたと本当に感謝しております。今後とも看護師として「質」高める大学の発展を願っています。
赤十字の教育（基礎力、実践力）の継続	17	赤十字らしさを追求してほしい。グローバルな視座から。基本的看護技術の妥協なき教育は財産です。 乱立する看護学部の中で「やっぱり赤十字の卒業生は看護について考える力があるな」と思われるよう、講義の質や学生の習得度を落とさないようにしてほしい。
情報、学習の機会が欲しい	11	長く仕事から離れているので、復職前に最新の看護や助産などの医療的な情報を地方でも得られたらいいなと思います。
看護とは何かを考える教育への期待	9	看護の原点を見失わないような人材の育成を続けてほしい。（赤十字だけはその精神を現場でも忘れないでほしい） 看護の本質が問われているのが今だと思う。医療職種が専門化する中で「看護とは」と問われた時、果たして周りの人が納得できるメッセージを送れるのか。
幅広い視点と交流ができる教育	9	国内外に広く活躍できる人材が求められると思います。学生も大きな視野と志を持って学んでほしいと思います。
学生に寄り添える教育	6	幅広く人間を観察、理解して病んでいる人に寄り添って看護できる人材を育成していただきたいと思います。
社会人としての基礎力	4	多くの看護大学ができて中、ただ人数だけ増やせばよいのではなく、社会人としての基礎力を持った、学生を育ててほしい。
社会へ発信	3	6大学、1短大、91医療施設、15看専、1助学という巨大グループにおいて調査、研究のリーダー的役割を担い、日看協や国への提言、社会へ発信していける力をもちたい。
大学との連携、その他	3	大学と同窓会の連携が強いことで大学の教育体制や教育効果につながっていると思っています。

リーダーシップが取れる教育	2	看護系大学は年々増加しているが、先駆的な存在として、リーダーシップをとれる人材の輩出と研究の充実をはかってほしい 看護師のリーダーとなるよう、4年間で学習してほしいです。
研究力の強化	1	個人的な反省ではあるが、他大学の博士後期課程に進学した今、研究実績の積み上げ方の差を感じている。
男性教員の増加	1	同窓会誌の中で看護大学の動向の記事を見て、教職員の異動で女性の職員が多いことを見て、ちょっと違和感を覚えました。もう少し男性の眼で「看護教育」を見ることができれば…と感じています。
本調査結果の開示	1	発表されることを願っています

136件の記述のうち同窓会に関する記述は48件であった。そのうち15件は、同窓会への感謝、同窓会誌を楽しみにしていることなどが記述されていた。同窓生とのネットワークづくり11件は災害時に対応できるよう同窓生ネットワークを作るなどの具体的な案の記述もあった。同窓会のメンバーの情報、あるいは認知症等への対応等の情報の希望が11件あった（表Ⅵ-2）。

同窓会は、これまで武蔵野短期大学同窓会と統合を経ているが、今後さいたま看護学部も含めて、同窓会規模が大きくなることに伴う運営課題への意見もあった。

表Ⅵ-2 同窓会への期待に関する記述内容の分類

48件/136件

項目	件数	記述内容の抜粋
同窓会への感謝	15	同窓会誌のおかげで日赤の看護師として働いていた時のことを思い出したり、自分もがんばらねば！という勇気をもらえています。 同窓会誌楽しく読ませて頂いています。 大学の学報も楽しみです。ありがとうございました。
繋がり、ネットワーク	11	全国で活躍している同窓生に働きかけ実践活動、研究活動のネットワークにより社会貢献に資する活動が出来るとよいと思います。 領域毎の同窓会があれば参加したいと思います。
情報	11	日本中又世界で活躍する同窓生の活動状況などを広くPRされていくと嬉しく思います。 看護など社会的に活躍している方々の情報を発信して欲しいと思ってました。
関われないので残念	3	学校を卒業してしまうと日々の生活（仕事も含む）にいっぱい、なかなか同窓生や大学のことを考えたり協力したりする余裕がありません。 頑張っておられる方には大変申し訳なく思うのですが…
同窓会運営への懸念	4	卒業時にクラス連絡員を引き受けてしまったのですが、同窓会も自分自身も状況が変化してしまい、正直責任を果たせそうになく困っています。 今後同窓会の規模が大きくなってきた時に、どのように1人1人の同窓生に同窓会の恩恵を還元していくことができるか、参加を促していくかが課題であると思います。

調査結果の開示	2	とても興味深い研究です。結果がまとまりましたら、ぜひ同窓会誌で発表してください。
経済支援	2	若者への負担を少しでも少なくし、学業に専念できるように、日赤としての補助などがあればと考えています。(留学の推進も)

資料



# 図表

- 第Ⅰ章 表Ⅰ－１ 年代別の回答者性別と割合  
表Ⅰ－２ 卒業・修了した教育機関群別の回答者性別と割合  
表Ⅰ－３ 卒業・修了した教育機関別にみる回答者の割合  
表Ⅰ－４ 回答者の年代と卒業・修了した教育機関群のクロス表  
表Ⅰ－５ 卒業・修了した教育機関群別の婚姻率  
表Ⅰ－６ 子どもの有無と子どもの数の割合  
表Ⅰ－７ 卒業・修了した教育機関群別にみた子どもの有無と人数  
図Ⅰ－１ 回答者の年齢の割合  
図Ⅰ－２ 回答者の現在の居住地
- 第Ⅱ章 表Ⅱ－１ 年代別にみた卒業直後の進路  
表Ⅱ－２ 卒業・修了した教育機関群別にみた卒業直後の進路  
表Ⅱ－３ 卒業直後の就職先  
表Ⅱ－４ 年代別の卒業直後就職先  
表Ⅱ－５ 卒業・修了した教育機関群別の卒業直後就職先  
表Ⅱ－６ 卒業・修了した教育機関群別にみた卒業後の研修と進学先  
表Ⅱ－７ 卒業・修了した教育機関群別にみた免許取得・資格（複数回答）  
表Ⅱ－８ 年代別にみた学位とその割合（複数回答）  
表Ⅱ－９ 卒業・修了した教育機関群別にみた取得学位（複数回答）  
図Ⅱ－１ 卒業直後の進学先  
図Ⅱ－２ 卒業後に受けた研修あるいは進学先（複数回答）  
図Ⅱ－３ 取得免許・資格（複数回答）  
図Ⅱ－４ 取得学位（複数回答）
- 第Ⅲ章 表Ⅲ－１ 看護職（保健師・助産師・看護師）としての通算年数（全体）  
表Ⅲ－２ 看護職（保健師・助産師・看護師）としての通算年数の内訳  
表Ⅲ－３ 年代別の現在の職業継続  
表Ⅲ－４ 卒業・修了した教育機関群別の現在の職業継続  
表Ⅲ－５ 年代別の転職回数と転職の有無  
表Ⅲ－６ 卒業・修了した教育機関群別の転職回数と転職の有無  
表Ⅲ－７ 転職の理由（複数回答）  
表Ⅲ－８ 年代別の現在の職業（職種）  
表Ⅲ－９ 卒業・修了した教育機関群別の現在の職業（職種）  
表Ⅲ－１０ 年代別の仕事を継続する理由（最もあてはまるもの３つ）  
表Ⅲ－１１ 卒業・修了した教育機関群別にみた仕事を継続する理由（最もあてはまるもの３つ）

- 表Ⅲ－12 年代別にみた現在の仕事に対する満足度
- 表Ⅲ－13 卒業・修了した教育機関群別にみた現在の仕事に対する満足度
- 表Ⅲ－14 年代別の看護師としての継続意思
- 図Ⅲ－1 年代別の現在の職業
- 図Ⅲ－2 年代別の現在の職位
- 図Ⅲ－3 年代別の仕事を継続する理由（最もあてはまるもの3つ）
- 図Ⅲ－4 現在の仕事に対する満足度
- 図Ⅲ－5 看護職としての継続意思
- 図Ⅲ－6 これまで就いた職業・職種について（複数回答）

- 第Ⅳ章
- 表Ⅳ－1 仕事をもつことの意味
  - 表Ⅳ－2 年代別にみた仕事をもつ意味
  - 表Ⅳ－3 卒業・修了した教育機関群別による仕事をもつことの意味
  - 表Ⅳ－4 年代別にみた仕事以外の地域や社会での役割（複数回答）
  - 表Ⅳ－5 卒業・修了した教育機関群別にみた仕事以外の地域や社会での役割（複数回答）
  - 表Ⅳ－6 年代別にみた人生の充実度
  - 表Ⅳ－7 卒業・修了した教育機関群別にみた人生の充実度
  - 図Ⅳ－1 仕事をもつことの意味
  - 図Ⅳ－2 仕事以外の地域や社会での役割（複数回答）
  - 図Ⅳ－3 年代別にみた仕事以外の地域や社会での役割（割合）
  - 図Ⅳ－4 卒業・修了した教育機関群別にみた仕事以外の地域や社会での役割（割合）
  - 図Ⅳ－5 卒業・修了した教育機関群別にみた仕事以外の地域や社会での役割（人数）
  - 図Ⅳ－6 人生の充実度

- 第Ⅴ章
- 表Ⅴ－1 ディプロマポリシーからみる赤十字の看護教育を通して身についた力
  - 表Ⅴ－2 卒業・修了した教育機関群別にみる赤十字の看護教育を通して身についた力
  - 表Ⅴ－3 年代別にみる赤十字の看護教育を受けて良かったこと（複数回答）
  - 表Ⅴ－4 年代別にみる学生生活で良かったこと（複数回答）
  - 表Ⅴ－5 卒業・修了した教育機関群別にみる学生生活で良かったこと（複数回答）
  - 図Ⅴ－1 ディプロマポリシーからみる赤十字の看護教育を通して身についた力
  - 図Ⅴ－2 赤十字の看護教育を受けて良かったこと（複数回答）
  - 図Ⅴ－3 卒業・修了した教育機関群別にみた赤十字教育を受けて良かったこと（複数回答）
  - 図Ⅴ－4 学生生活でよかったこと（複数回答）

- 第Ⅵ章
- 表Ⅵ－1 大学への期待に関する記述内容の分類
  - 表Ⅵ－2 同窓会への期待に関する記述内容の分類
  - 図Ⅵ－1 大学・同窓会に望むこと（複数回答）
  - 図Ⅵ－2 同窓生のネットワークづくりについて
  - 図Ⅵ－3 母校発展のために協力してよいと思えること（複数回答）



# 質問紙

# 卒業後の動向調査



日本赤十字看護大学  
日本赤十字看護大学同窓会

## I あなた自身について（すべての方、ご回答ください）

該当する数字に○をつけ、カッコ内は記述してください。

- a. 性別      1. 女性      2. 男性
- b. 年齢  
 1. 20代      2. 30代      3. 40代      4. 50代  
 5. 60代      6. 70代      7. 80代以上
- c. 卒業・修了した教育機関（該当するものすべてに○をつけてください）  
 1. 日本赤十字社中央病院救護看護婦養成所  
 2. 日本赤十字社中央病院救護看護婦養成所（乙種）  
 3. 日本赤十字女子専門学校  
 4. 日本赤十字女子短期大学  
 5. 日本赤十字中央女子短期大学  
 6. 武蔵野赤十字高等看護学院  
 7. 日本赤十字武蔵野女子短期大学  
 8. 日本赤十字武蔵野短期大学  
 9. 日本赤十字看護大学  
 10. 日本赤十字看護大学大学院
- d. 婚姻の有無  
 1. あり      2. なし
- e. 子どもの有無  
 1. あり（      人）      2. なし
- f. 居住地      （      ） \*都道府県名を記入、外国の場合は国名

## II 卒業後について（すべての方、ご回答ください）

該当する数字に○をつけ、カッコ内は記述してください。

- a. 卒業直後の進路  
 1. 就職した → b. にお進みください  
 2. 進学した → c. にお進みください  
 3. その他（具体的に      ）

a. で1に○をした方はb.へ、2に○をした方はc.へお進み下さい

b. 卒業直後の就職先を1つ選んでください。

1. 赤十字系の病院
2. 赤十字以外の病院
3. 看護系教育機関
4. 保健所・保健センター
5. 企業
6. 学校（小中高）保健室
7. その他（ ）

c. 卒業直後の進学先を1つ選んでください。

1. 大学（一般系）
2. 大学（看護系）
3. 大学院（一般系）
4. 大学院（看護系）
5. 専攻科（助産師、保健師教育機関など）
6. 専門学校
7. その他（ ）

すべての方、ご回答ください

d. 卒業後に受けた研修あるいは進学先について（複数回答可）

1. 日本赤十字社幹部看護師研修センター  
（旧：日本赤十字社幹部看護婦教育部または研修所）
2. 赤十字以外の研修センター（厚生労働省、文部科学省、都道府県他）
3. 実習指導者研修会（厚生労働省または看護協会委託）
4. 認定看護師教育課程
5. 特定行為研修
6. 大学（国内）
7. 大学院（修士：国内）
8. 大学院（博士：国内）
9. 国外の看護教育機関（大学、大学院修士課程、大学院博士課程）
10. その他（ ）

e. 取得免許・資格（複数回答可）

1. 看護師
2. 保健師
3. 助産師
4. ケアマネジャー
5. 認定看護師（分野名： ）
6. 専門看護師（分野名： ）
7. 認定看護管理者
8. 看護教員
9. 学会認定資格（具体的に： ）
10. その他（ ）

f. 取得学位（複数回答可）

1. 取得学位はなし
2. 準看護学士
3. 看護学士
4. 看護学修士
5. 看護学博士
6. 学士（分野名： ） \*看護以外の場合記入
7. 修士（分野名： ） \*看護以外の場合記入
8. 博士（分野名： ） \*看護以外の場合記入

### Ⅲ あなたの職業について

該当する数字に○をつけ、カッコ内は記述してください。

#### a. 看護職（保健師・助産師・看護師）としての通算年数

全体（ ）年（ ）か月

内訳：臨床・臨地（ ）年（ ）か月 教育・研究（ ）年（ ）か月

その他（ ）年（ ）か月

#### b. あなたは現在仕事をしていますか

1. 看護関係の仕事をしている ➡ ア. 常勤として イ. 非常勤として
2. 看護以外の仕事をしている ➡ ア. 常勤として イ. 非常勤として
3. 仕事をしていない

#### c. 転職の有無（職場内異動は含まない）

1. 転職した（1～3回・4～6回・7～9回・10回以上）
2. 転職していない

#### d. 転職・離職理由（複数回答可）

1. 奨学金返還終了（社費含む）
2. 結婚
3. 妊娠・出産・育児
4. 地元に戻るため
5. 別の職場からの誘い
6. やりたい仕事を発見
7. 自分の進学
8. 配偶者の転勤
9. 親の介護
10. 自分の病気
11. 家族の病気
12. 職場の人間関係
13. 仕事内容
14. 自分の適性
15. 勤務条件（給与や勤務時間）
16. 定年
17. 看護職以外の仕事につくため
18. その他（ ）

現在看護職としてお仕事をされている方は、e. から i. の質問にお答えください

#### e. 現在の職業（職種）

1. 看護師
2. 保健師
3. 助産師
4. ケアマネジャー
5. 看護専門学校の教員
6. 短期大学の教員
7. 大学の教員
8. 研修センターの教員
9. 厚労省等の職員
10. 研究機関の研究職
11. 養護教諭
12. 訪問看護ステーション
13. その他（ ）

#### f. 現在の職位

1. 医療機関・福祉施設等のスタッフ
2. 医療機関・福祉施設等の中間管理職（看護副部長、師長、課長）



3. 医療機関・福祉施設等のトップ・マネジャー  
(看護部長、所長、施設長等)
4. 訪問看護ステーションのスタッフ (常勤・非常勤)
5. 訪問看護ステーションのトップ・マネジャー
6. 教育機関 (専門学校・短大・大学)  の  
教員スタッフ (助手・助教・講師・准教授・その他)
7. 教育機関 (専門学校・短大・大学)  のマネジャー (教授、  
またはそれに準じる職位)
8. 教育機関 (専門学校・短大・大学)  の学科長・学部長、  
またはそれに準じる職位
9. 教育機関 (専門学校・短大・大学)  の  
トップ・マネジャー (学校長、副学校長、学長、理事など)
10. その他 ( )

★現在の所属先と活動内容 (差支え無ければ、具体的に教えてください)

**g. 仕事を継続する理由** \*最もあてはまるもの3つまで選んでください

1. 仕事が好きだから
2. 社会の役に役立ちたいから
3. 経済的理由
4. やりがいのある仕事だから
5. 自分に適した仕事だから
6. 他の仕事をするきっかけが見つからない
7. 奨学金の返済期間中
8. その他 ( )

**h. 現在の仕事に対する満足度**

1. 満足していない
2. どちらかといえば満足していない
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば満足している
5. 満足している

**i. 看護職としての継続意思**

1. 継続したくない
2. どちらかといえば継続したくない
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば継続したい
5. 継続したい

現在看護職としてお仕事をされていない方は、j . k . の質問にお答えください

j. これまでに就かれた職業（職種）を教えてください。（複数回答可）

- |                  |                  |                    |
|------------------|------------------|--------------------|
| 1. 看護師           | 2. 保健師           | 3. 助産師             |
| 4. ケアマネジャー       | 5. 看護専門学校<br>の教員 | 6. 短期大学<br>の教員     |
| 7. 大学の教員         | 8. 研修センター<br>の教員 | 9. 厚労省等<br>の職員     |
| 10. 研究機関<br>の研究職 | 11. 養護教諭         | 12. 訪問看護<br>ステーション |
| 13. 福祉施設<br>の管理者 | 14. 福祉施設<br>の職員  |                    |
| 15. その他（         |                  | ）                  |

k. これまでに就かれた職位を教えてください。（複数回答可）

1. 医療機関・福祉施設等のスタッフ
2. 医療機関・福祉施設等の中間管理職（看護副部長、師長、課長）
3. 医療機関・福祉施設等のトップ・マネジャー  
（看護部長、所長、施設長等）
4. 訪問看護ステーションのスタッフ（常勤・非常勤）  いずれかに○
5. 訪問看護ステーションのトップ・マネジャー
6. 教育機関（専門学校・短大・大学）  いずれかに○ の  
教員スタッフ（助手・助教・講師・准教授・その他）  いずれかに○
7. 教育機関（専門学校・短大・大学）  いずれかに○ のマネジャー（教授、  
またはそれに準じる職位）
8. 教育機関（専門学校・短大・大学）  いずれかに○ の学科長・学部長、  
またはそれに準じる職位
9. 教育機関（専門学校・短大・大学）  いずれかに○ の  
トップ・マネジャー（学校長、副学校長、学長、理事など）
10. その他（

## IV 仕事と人生の充実度について (すべての方、ご回答ください)

a. 仕事を持つことはあなたにとってどのような意味がありますか。各項目について、それぞれ最も近いと思う箇所を一つ選び○を記入してください。

	5 意味がある	4 どちらかという 意味がある	3 どちらともいえない	2 どちらかといえば 意味がない	1 意味がない
生活する上での充実感が得られる					
自分の夢や希望が実現する					
見識や経験が広がる					
自分が成長する					
自立心を得る					
社会的地位を得る					
職業に魅力がある					
人との出会いがある					
経済的に楽になる					
家族が望んでいる					
仲間が出来る					
職場の期待に応える					
看護の発展に貢献する					
社会に貢献する					

b. 仕事以外で地域や社会での役割や活動を担ったことがありますか。

(複数回答可)

1. 学会等の理事長
2. 学会等の理事・監事
3. 学会等の評議員
4. 公的機関 (行政、社会福祉協議会等) の委員やスタッフ
5. 同窓会の役員
6. 同方会の役員
7. 病院や福祉施設のボランティア活動
8. 地域のボランティア活動
9. PTA・保護者会活動
10. 特にしていない
11. その他 ( )

c. あなたの人生の充実度についておうかがいします。該当する番号を1つ選び○をつけてください。

1. 充実していない      2. どちらかといえば充実していない  
3. どちらともいえない      4. どちらかといえば充実している  
5. 充実している

## V 赤十字の看護教育について（すべての方、ご回答ください）

a. 赤十字の看護教育を通して身についたと思う力についてお尋ねします。各項目について、それぞれ近いと思う箇所を一つ選び○をつけてください。

質問	5 身についた	4 どちらかといえ ば	3 どちらともいえない	2 どちらかといえ ば	1 身についていない
関係を築く力					
擁護する力					
実践する力					
探求する力					
連携する力					
成長する力					
国際貢献する力					
変化を生み出す力					
研究する力					
内省する力					
リーダーシップを発揮する力					
社会に発信する力					
批判的・俯瞰的にものごとを見る力					
学際的に協働する力					
世界的視野から課題に挑戦する力					
新たな提言をする力					

**b. 赤十字の看護教育を受けて良かったことはどのようなことでしょうか。**  
(複数回答可)

1. 看護の理念や考え方
2. 教師陣が充実
3. カリキュラムとその構成
4. 講義の内容
5. 演習の内容
6. 臨地実習の内容
7. 実習における教員の指導体制
8. 実習施設における指導体制
9. 卒業研究
10. 特にない
11. その他 ( )

**c. 学生生活で良かったことはどのようなことでしょうか。**(複数回答可)

1. 施設・設備
2. 実習施設との連携
3. 周辺の環境
4. 教職員との交流
5. 奨学金制度
6. 1学年の人数
7. 同級生との交流
8. 先輩・後輩との交流
9. サークル活動
10. 自己の成長
11. 特にない
12. その他 ( )

## VI 今後の大学や同窓会のネットワークづくりについて (すべての方、ご回答ください)

**a. 赤十字看護大学・同窓会に望むこと** (複数回答可)

1. 伝統の継続
2. 教育の充実
3. 幅広く活躍できる人材の輩出
4. 看護継続教育プログラムを構築
5. 看護教育に関する最新情報の配信
6. 大学と就職先の連携
7. 大学院受験情報の提供
8. 専門看護師養成分野の増加
9. 大学の近況やイベント情報の提供
10. 卒業生の状況・近況の情報提供
11. 大学と同窓会とのつながりの充実
12. 同窓生の意見を提示できるシステム構築
13. 同窓生を含めた海外研修の企画
14. その他 ( )

**b. 同窓生のネットワーク**

同窓生のネットワークをつくり、興味関心のある仲間同士がつながりあうことについて、どのように思いますか。該当する数字に○をつけてください。

1. 賛成しない
2. どちらかといえば賛成しない
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば賛成する
5. 賛成する

c. 母校の発展のためにあなたが協力してもよいと思えることは何ですか。  
(複数回答可)

1. 大学での講演・講義
2. 研究での協力 (共同研究・被験者として)
3. 実習での協力
4. 寄付
5. 歴史資料や大学の資料収集のボランティア活動
6. その他 ( )

d. その他、同窓会や大学に期待することがあれば、教えてください。

ネットワークに参加してもよいという方は、別紙に連絡先をご記載いただき同封して下さい。

ご協力ありがとうございました。

## おわりに

赤十字の看護教育は2020年には130周年を迎え、また同年さいたま看護学部の開設により、現在本学は2つの学部と1つの大学院を有する大学になりました。本報告書は、この伝統ある赤十字の看護教育を受けた同窓生のご協力を得て、卒後の活動実態、キャリアや人生の充実度、そして赤十字の看護教育で身についたことやその意味などを中心に調査した結果です。その結果これまで調査されてこなかった実態が明らかになり、また今後の教育上の課題なども見出すことができました。現在看護職としてご活躍されている方たちはもちろんのこと、これから看護職を目指そうとされている方たちへも多くの示唆を与えるものと考えられます。本調査にあたり多くの同窓生の皆様にご協力をいただきました。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

### 卒業生調査プロジェクトメンバー

守田 美奈子	佐々木 幾美	遠藤 公久	本庄 恵子	江本 リナ
喜多 里己	吉川 悦子	殿城 友紀	洪澤 毅	小暮 カオル
竹内 幸枝	大和田 恭子			

### 卒業後の動向調査報告書

企 画	卒業生調査プロジェクト
発 行	2021年 10月
	学校法人 日本赤十字学園 日本赤十字看護大学
	日本赤十字看護大学同窓会
	〒150-0012
	東京都渋谷区広尾4-1-3
印 刷	株式会社 丸井工文社
	〒107-0062
	東京都港区南青山7-1-5

